

六、驗訖證及護照制度ノ如キ通商ノ障害トナル制度ハ成ルヘ  
ク速ニ之ヲ廢止セラレタキコト

~~~~~

545 昭和9年12月28日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

關東廳による酒税など付属地内課税実施は満

州国との間に紛糾が免れない旨意見具申

奉天 12月28日後発  
本省 12月28日後着

第四六六號

貴大臣發滿宛電報第一二三七號ニ關シ

一、關東廳當局カ新機構ニ依ル關東局ヲ以テ關東廳ノ新京進  
出考ヘ附屬地ニ對スル同廳從來ノ方針ヲ其ノ儘關東局  
ニ依リテ實行セントスルコトハ機構改革ノ根本精神ヲ沒  
却シタルモノニテ殊ニ本件ノ如ク關東局ニ對シ附屬地内  
ニ於ケル新ナル財源ヲ與フルコトハ將來益々附屬地行政

滿、營口、安東へ轉電セリ

~~~~~

### 3 列国の対満経済発展活動

546 昭和9年1月8日 在英國松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日滿両国を往訪した英國化学会社社長との満州  
國門戸開放問題などに関する意見交換について

ロンドン 1月8日後発  
本省 1月9日前着

第五號(極秘)

數(日)前 S. W. Harry McGowan 本使ヲ來訪シ過日渡日  
セル所我カ國朝野ヨリ受ケタル好意ヲ謝シ次官ヨリ日本政  
府ハ日英親善ニ努メラル御方針ナル(旨)承ハリ歸來自分  
モ其ノ目的ノ爲微力ヲ盡ス積ナル處今日日本品カ過當ノ廉  
價ニテ各地ニ輸出セラルルコトハ鮮カラス英國其ノ他各國  
ノ神經ヲ刺戟シ居リ競爭緩和ノ爲何等カノ有效ナル措置ヲ  
執ラサルニ於テハ國交平和(ニ)惡影響ヲ及ホスコトアルヘ  
キヲ惧ル自分ノ關係スル處ニテモ硫酸「アンモニア」及曹  
達灰カ日本ヨリ印度米國等ニ廉賣セラルル爲英國側ニテハ

殆ト之ニ對抗出來サル狀態ナリ本件ニ付テハ競爭緩和ノ爲  
キヲ惧ル自分ノ關係スル處ニテモ硫酸「アンモニア」及曹  
達灰カ日本ヨリ印度米國等ニ廉賣セラルル爲英國側ニテハ  
附屬地阿片專賣制度ノ撤廢ヲ爲スコトコソ今次機構改革  
ノ根本方針ニ副フモノト思考ス

三、關東廳カ附屬地ヲ帝國領土視シ之ニ強制力ノ伴フ課稅權  
ヲ行フコトハ第三國人トノ關係上論議ヲ生シ易キハ御承  
知ノ通ニテ先般モ滿洲國稅務當局來館ノ際偶々本件ニ言  
及シタル處滿洲國ノ關稅線ヲ飛ヒ越ヘ日本政府ノ國內稅  
ヲ認ムルコトハ理論的ニモ困難ナリト反對シ居リタリ又  
酒煙草類ハ附屬地外消費カ大部分ナルニ之ニ關東局ノ消  
費稅ヲ課ストセハ事實上關東局ノ消費稅ヲ附屬地外ニ適  
用スル結果トナリ面白カラス假ニ附屬地内消費ノ分ニノ  
ミ課セントスルモ技術的ニ種々ノ困難ヲ伴ヒ延テ滿洲國  
トノ間ニ紛糾ヲ免レサルヘシ

客年八月二十二日附機密第一〇七號<sup>(二〇七九)(編送)</sup>拙信工場設置計畫ニ關  
スル支那側トノ交渉振ヲ質問セル處右ニ關シテハ渡支後二  
三週間宋子文トノ間ニ話ヲ進メ可ナリ進捗シタル矢前ニ宋

失脚セルカ爲畫餅ニ歸シ今後若シ之ヲ作り直ストセハ新ニ  
話ヲ出ササルヘカラサル始末ニテ支那軍閥割據ノ状況ヲ實  
見シ其亂脈ノ状態ヲ深ク感シタル自分ハ將來右計畫カ如何  
ニ成リ行クモ余リ關心ヲ有セサルニ至リタリト語レリ  
獨ヘ轉電セリ

編注『日本外交文書』昭和期II第一部第二卷第442文書。

547 昭和9年1月13日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

獨國政府の公的資格を有するハイエが滿州國

および日本に派遣されるとの情報について

奉天 本省 1月13日後着 発

第一二號

本官發滿宛電報

第一號

當地「ニユウルセン」ノ談ニ依レハ最近當地獨逸人ハ勿論  
本國方面ニ於テモ滿洲國ニ對シ次第ニ好感情ヲ抱キ來レル

548 昭和9年2月16日 菱刈関東長官より  
広田外務大臣宛

ベルギー人実業家との滿州國門戸開放および満  
州國承認問題などに關する意見交換について  
關機外第四五號 (3月3日接受)

昭和九年二月十六日 關東長官 菱刈 隆(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

バロン、バイヤンノ行動ニ關スル件  
客年往電第四六號及駐滿大使發貴大臣宛(二月二日附公信合  
機密第一四號ニ關シ)

### 一、門戸解放ト滿洲國承認ニ關スル意見

バロン、バイヤンハ一月末新京ヨリ來連二月九日上海ニ  
向ケ出發シタルカ其ノ間本官旅順ニ於テ執務中御厨外事  
課長ヲ通シ左記二點ニ付日本政府ノ真意ヲ承知致シ度シ  
トノ質問ヲ提出シタリ

「(イ)日本政府及滿洲國政府ハ建國宣言ノ通機會均等門戸  
解放ノ原則ヲ遵守スルノ誠意アリヤ、若シ右ノ聲明  
ハ實ハ外國ニ對スル手前ヲ繕フノミニテ兩國政府ノ  
眞ノ意図ハ口實ノアル限り外國ノ資本及事業ヲ排斥  
セントスルニ在ラハ吾人外國人ハ唯默シテ去ランノ  
ミ若シ其ノ眞意カ外國資本及外國人ノ事業ヲ歡迎ス  
ルニ在ラハ具體的ニ等資本ノ投下及事業ノ開始ニ  
付積極的ニ便宜ヲ與ヘ右聲明ノ虛偽ニ非サルコトヲ  
實證セラルル必要アリト思考スルカ如何

(ロ)日本政府ハ果シテ世界列國カ滿洲國ヲ承認スルコト  
本官ハ之ニ對シ左ノ趣旨ヲ答ヘシメタリ

「(イ)日滿兩國政府共誠心誠意滿洲國ノ建國宣言ノ趣旨ヲ  
尊重スルモノニシテ何レノ國ノ資本及事業ニ對シテ  
事業ヲ保護スル必要上當分滿洲國カ之等列國ニ依リ  
承認セラレサル方却テ便宜ナリトノ御意見ナラハ何  
ヲカ謂ハシ若シ眞ニ列國ノ承認ヲ希望セラルルナラ

コトヲ認メ得ル處數日前當地獨逸領事ヘ本國政府ヨリ今後  
徐々ニ滿洲國當局ニ對シ公私共ニ接近ヲ計ルヘキ旨内密ノ  
訓令アリ又近ク本國ヨリ Heye ナルモノ何等 Official の資  
格ニテ滿洲國及日本ニ派遣セラルルコトトナリ居リ其渡滿  
ノ目的ニ付テハ明カラサルモ同國ノ對滿政策決定資料蒐  
集ノ爲ト思考セラルトノコトナリ聞込ノ儘

大臣、哈爾賓ヘ轉電セリ

「(イ)日滿兩國政府共誠心誠意滿洲國ノ建國宣言ノ趣旨ヲ  
尊重スルモノニシテ何レノ國ノ資本及事業ニ對シテ  
モ滿洲地方ヲ閉鎖スルノ意思ナク寧ロ之ヲ歡迎スル  
モノナリ、唯日滿兩國ノ國防上必要ナル産業其ノ他

當然統制ヲ必要トスルモノハ外國ノ資本及事業ニ委スルコトヲ得サルハ勿論其ノ他ノ産業ニ於テモ競争其ノ他ノ關係モアルヘク相當ノ條件手續順序等ヲ考慮セサルヘカラサルモノアルヘシ、具體的ニ如何ナル事業ニ着手シ又ハ投資スルカノ希望ヲ具シテ當該官憲ニ交渉セラルニ於テハ出來得ル限り希望ニ副ハシムル様盡力ヲ惜シマサルヘシ

(口)列國ノ滿洲國政府承認ハ日滿兩國ノ均シク希望スル處ナリ、貴殿カ日本ニ好感ヲ有シ其ノ關係セラルル歐洲諸國ノ承認促進ニ努力セラルニ於テハ我國ニ於テモ之ヲ「アップレシエイト」スルニ吝ナラサルベシ、尙貴殿ノ意見ニ付テハ關係方面ニ移牒シテ適當ニ考慮セシムヘシ

就テハ同人ノ利用方ニ關シ外務省及新京大使館ニ於テ然ルヘク考慮相成様致度  
二、鴨綠江水力電氣事業計畫  
バロン、バイヤンハ朝鮮昌城附近ニ於テ鴨綠江ヲ堰止メ大規模ノ水力電氣事業ヲ起シ全滿洲及北朝鮮ニ電力ヲ供給スル計畫ヲ樹テ其ノ可能性ニ付朝鮮總督府ニ對シ資料

五、今後ノ行動  
同人ハ出發ニ際シ上海ニ於テハ佛、白公使其ノ他ノ方面ト會談ノ後二十日頃東京ニ出テ滿洲國皇帝即位式頃再ヒ新京ヲ訪問シタル後大連ニ歸ルヘク同市星ヶ浦ニ六箇月ノ約束ヲ以テ一英國人ノ別莊ヲ借受ケタル旨御厨ニ語レリ

寫送付先駐滿大使、上海駐支公使

549 昭和9年2月20日 在満州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

#### ハイエの来満とその代表資格について

別電 二月二十日発在満州國菱刈大使より広田外務

大臣宛第二四〇号

ハイエの代表資格に関する在本邦獨国大使の

ハイエ宛電報

(別電)

付記 右電報仮訳

新 京 2月20日後発  
本 省 2月20日後着

No.240

Von Auswärtigem Amt entsprechende Weisung eingegangen mit Massgabe dass alle etwaigen Abreden vor formellem Abschluss der Reichsregierung zur Genehmigung vorgelegt werden müssen. Hiesiges Außenministerium wird morgen von Ihrer Bestellung zum vorläufigen Kommissar verständigt.

Dirksen.

#### 五 滿州國をめぐる諸問題

客年九日當地ヲ來訪シタル事有ル獨逸人「フェルジナム、ヘルマン、ハイエ」(客年十月五日附公機密第九六五號御参照)ハ再ヒ來朝種々畫策中ナリシカ十七日東京發上田豫備中佐帶同當地ニ向ヒタル趣參謀本部總務部長ヨリ當地軍側ニ入電(七五)ノ次第有リタル處兩人ハ二十日突然吉澤ヲ來訪シ「ハ」ヨリ別電第一四〇號(釜山局宛トナリ居り旅行中受取リタルモノト察セラル)ヲ示シ東京外務省ヨリ當館ニ對シ右ニ關シ何等カ通報有リタリヤト問ヒタルニ付吉澤

ノ提供ヲ求メタルモ満足ナル回答ヲ得ス其ノ計畫ヲ中止シタル旨外事課長ニ漏シタリ

#### 三、滿洲鉛鑛開發事業

バロン、バイヤンハ滿鐵又ハ滿鐵重役中ノ或者ノ間ニ滿洲地方ノ鉛鑛開發會社設置セラルルコトトナリ奉天ニ工場ヲ設置スル計畫アリトノ情報ヲ得タル處佛、白資本力右ニ協力ノ余地アリヤ否ヤヲ滿鐵ニ就キ確メタル處滿鐵側ヨリスル具體的計畫ナシトノロ頭回答ヲ得タル趣ナリ四、滿洲大豆ノ統制ニ關スル試案  
バロン、バイヤンハ滿洲ノ經濟開發特ニ滿洲大豆ノ統制ニ關シ別紙(省略)「ノート」ヲ作成シ御厨ヲ通シ之ヲ遠藤總務廳長ニ提出シタリ

#### 當ニ考慮セシムヘシ

就テハ同人ノ利用方ニ關シ外務省及新京大使館ニ於テ然ルヘク考慮相成様致度

#### 二、鴨綠江水力電氣事業計畫

バロン、バイヤンハ朝鮮昌城附近ニ於テ鴨綠江ヲ堰止メ大規模ノ水力電氣事業ヲ起シ全滿洲及北朝鮮ニ電力ヲ供給スル計畫ヲ樹テ其ノ可能性ニ付朝鮮總督府ニ對シ資料

#### 五、今後ノ行動

同人ハ出發ニ際シ上海ニ於テハ佛、白公使其ノ他ノ方面ト會談ノ後二十日頃東京ニ出テ滿洲國皇帝即位式頃再ヒ新京ヲ訪問シタル後大連ニ歸ルヘク同市星ヶ浦ニ六箇月ノ約束ヲ以テ一英國人ノ別莊ヲ借受ケタル旨御厨ニ語レリ

#### (付記)

(假  
譯)

一切ノ協定ハ正式締結前豫メ獨逸政府ニ提出シ其ノ認可ヲ  
經ルコトヲ要スル旨ノ訓令外務省ヨリ接到セリ。當地外務  
省ニ對シテハ貴下(ハイエ)カ臨時代表ニ任命セラレタル次  
第ヲ明日通報ノ筈。

デイルクセン(在京獨逸大使)

~~~~~

550 昭和9年2月21日 広田外務大臣より  
在満州国菱刈大使宛(電報)

ハイエが満州国との通商關係開始交渉のため  
獨國政府より代表に任命されたとの在本邦独

國大使通報について

本省 2月21日後3時40分発

第一九四號

奉天發賣官宛電報第一二二號ニ關シ

「ハイエ」ノ使命ニ關シテハ當初當地獨乙大使館側ノ説明  
ニ依レハ何等公式ノ使命ヲ有セストノコトナリシ處十九日  
在京獨乙大使來訪本大臣ニ對シ「ハイエ」ハ今般滿洲國ト  
獨乙トノ通商關係ヲ開始スル爲獨乙政府ヨリ代表

察セラルル次第ナルカ、何レニスルモ此ノ際同人ノ派遣乃  
至任命ノ事情ヲ承知シ置クコトハ今後同人ニ對スル取扱上  
是非トモ必要ナルニ付本件至急御取調相成結果回電アリタ  
シ  
在満大使ヘ轉電セリ

~~~~~

552 昭和9年2月21日 在獨國永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

獨國側のハイエ派遣事情などについて

ベルリン 2月21日後発

本省 2月22日前着

貴電第二〇號ニ關シ

國粹社會黨外交部ノ對外經濟部長ト稱スル「ダイツ」ナル  
モノ十九日本使ヲ來訪シ私的内談ナルコトヲ斷リタル上  
「ハイエ」ハ黨ノ委任ヲ受ケ滿洲國トノ通商關係殊ニ大豆  
ノ對獨輸入ヲ機械類ノ對滿輸出ニ依リテ決濟スル方法ニ付  
交渉ノ爲日本及滿洲ニ赴ケルモ日本及滿洲國ハ右問題ヲ滿  
洲國ノ承認ト結付ケ居ル爲同人ノ交渉ニ困難アル趣ナル處

(Kommissar)ニ任命セラレタルモノナル旨申述ヘタリ

尙「ハイエ」ハ一ヶ月餘滯京中ナリシカ十七日當地發渡滿  
ノ途ニ就キタル趣ナリ(滯京中當方ニハ直接連絡シ來ラス)  
獨ニ轉電セリ

~~~~~

551 昭和9年2月21日 広田外務大臣より  
在獨國永井大使宛(電報)

ハイエの満州國派遣事情およびその代表資格  
などにつき查報方訓令

第二〇號

本大臣發在滿大使宛電報第一九四號ニ關シ  
往電第七號及第一三號ニ對シテハ未夕御報告ニ接セサル  
處、冒頭電報ノ事情ヲ考フルニ「ハイエ」ハ當初「ナチス」

ノ有力者ヨリ非公式ニ派遣セラレタルモ右ニテハ活動上  
種々不便アル爲最近遂ニ獨乙政府トノ關係ヲ正式化スルニ  
至リタルモノナルヤニ想像セラルルト同時ニ未夕滿洲國ヲ  
承認セサル獨乙政府トシテハ斯ノ如キ特殊ノ資格ヲ有スル  
者ヲシテ滿洲國ト事實上ノ關係ヲ開始セントスルモノトモ  
タリ

右ニ對シテハ本使ハ適當應酬シ置キタルカ他面外務省當局  
ニ付内々「ハイエ」ニ關シ確メタル處ニ依レハ同人ハ既ニ  
約十年前ヨリ商業ニ從事シ滿洲ニモ居リタルコトアル處大  
工業家「チツセン」ト極メテ親近ノ間柄ニアリ客年夏「チ  
ツセン」ノ指圖ニ依リ對滿經濟關係開發ノ可能(性)調査ノ  
爲滿洲國ニ赴クコトナリタルカ「チツセン」ニ對シテハ  
殊ニ「ゲーリング」カ密接ナル關係ニアルノミナラス國粹  
社會黨トシテハ失業救濟ヲ重視セル關係上同黨モ右「ハイ  
エ」ノ調査ヲ支援セル結果黨側ト外務省上局ノ取計ニ依リ  
「ハイエ」ニ公用旅券ヲ與ヘラレタリ而シテ同人ハ客年秋  
一旦歸獨シ滿洲ノ大豆ト獨逸ノ機械類トノ決濟案ニ關シ彰  
大ナル計畫ヲ提示シタル處國粹社會黨ニ於テハ之ニ乘氣ヲ  
示シ客年十一月「チツセン」ニ依リ資本金十萬馬克ノ獨滿

輸出入會社(同會社ハ本年二月二十一日登記セラレタリ)組織

セラレ「ハイエ」ハ再ヒ滿洲國ニ赴クコトナリタルカ右

ハ同會社ニ關スル商談ノ爲ニ過キサルヲ以テ公用旅券ハ發

給セラレサリキ然レ共同人カ大使館及領事館ト聯絡ノ要有

ルハ勿論ニシテ之カ爲同人ニ或資格ヲ與フル必要アルニ鑑

ミ「ヒツトラー」宰相ヨリ同人ニ對滿經濟開發ニ關スル調

査ヲ委任スルコトトナリ兩三日前其ノ旨電報セラレタル次

第ナル處同人ハ右以外何等政治的任務ヲ有セス又其ノ報告

モ外務省ニ提出セラルヘキ筈ナリト云フ

惟フニ大豆ノ輸入ヲ機械類ヲ以テ決済セントスル案ニ關シ

テハ外務省當局ニ於テハ右ハ勞銀安キ滿洲國ヲ工業化シ日

本ノ大ナル競爭者タラシムルニ歸着スヘキヲ以テ此ノ一事

ヨリスルモ日本ニ反對アリ實現困難ト見居ルノミナラス

「ハイエ」ノ任務ニ關シテモ黨側ト外務省トノ間ニ多少意

見ノ齟齬アルヤニ感セラル處「ハイエ」ノ取扱ニ關シテ

ハ同人ハ前記ノ如ク「チツセン」ト親近ノ關係ニアルコト

及「チツセン」ハ「ナチ」ノ政權掌握以前其ノ運動ニ資金

ヲ供シタリト傳ヘラレ同黨ト深キ關係アル事實御含ノ上然

ル可ク措置アル様致度シ

滿へ轉電アリ度シ

~~~~~

553 昭和9年2月22日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

バーター貿易を骨子とした独満間通商方策に  
関するハイエ覚書について

別電 二月二十一日發在滿州國菱刈大使より廣田外

務大臣宛第一五二号

右覺書要領

付記 二月二十一日付

右覺書寫

新京 2月22日後発  
本省 2月23日前着

第一五二號

往電第二三九號ニ關シ

「ハイエ」ハ廿一日外交部ヲ訪問シ別電要領ノ如キ覺書ヲ  
提出シタルカ滿洲國政府ニ於テハ廿三日邊り關係部ノ會議  
ヲ開催シ對策ヲ協議スルコトトナレル趣ナリ(委細郵報)  
本電別電ト共ニ獨ヘ轉電セリ

(別電)

新 京 2月22日後発  
本 省 2月22日後着

第一五二號

獨逸ハ失業問題ニ惱ミ滿洲國ハ農民ノ主要生産物タル大豆  
ノ販路獲得ノ爲苦心シ居ル處裏(ニ)獨逸ニ於テハ廉價ナル  
亞麻仁或ハ鯨油ヲ以テ大豆ニ代ヘントスルノ企アリシモ右  
ハ少數ノ當業者ヲ利スルニ止マリ一般國民ノ福祉ニ資スル  
處少キ次第ナルヲ以テ前記兩國ノ要求ヲ調和スルカ如キ解  
決ヲ講スルノ必要ヲ認メ必要ナル交渉ヲ爲ス目的ノ爲獨逸

首相ノ命ヲ以テ余ヲ滿洲ニ派遣シタル次第ナリ依テ余ハ次  
ノ如キ提案ニ對シ滿洲國ノ考慮ヲ希望ス即チ滿洲國政府ハ

獨逸ヨリ同額ノ工業生産品ヲ購入スル義務ヲ負フコトヲ前

提トシテ獨逸ハ客年度ニ於ケル滿洲大豆ノ輸入額(約一億  
二千万馬克)ニ相當スル大豆ヲ輸入スルコトヲ保障ス前記

目的ノ爲獨逸ニ於テハ既ニ政府監督ノ下ニ一會社ヲ創立滿  
洲國ニ於テモ其ノ機關ヲ設クルコトヲ準備中ナルカ滿洲國

政府ノ希望スル工業生產品ノ引渡ハ總テ本會社ヲ通シテ行  
ハルモノトス又滿洲國政府ニ於テハ右ニ對應シテ大豆輸入

(付記)

Ferdinand Heye

Kommissar der deutschen Regierung  
fuer Wirtschaftsfragen zwischen  
Manchoukuo und Deutschland

Hsinking

den 21.2.1934.

Der Grundgedanke des vorliegenden Planes war  
folgender: Deutschland braucht Arbeit fuer seine vielen  
Arbeitslosen, Manchoukuo braucht Absatzgebiete fuer

das Hauptzeugnis des Bauern, die Sojabohne.

Zum Vorteil beider Länder muss man diese beiden Notwendigkeiten kombinieren. Daraus entstand mein Plan, den der Herr Reichskanzler genehmigt hat und mit dessen Ausführung er mich beauftragt hat.

Es lagen in Deutschland Bestrebungen vor, sich von der Sojabohne frei zu machen zu Gunsten der billigeren Leinsaat beziehungsweise des Walfischtranes. Diese Restrebungen wären nur zu Gunsten eines kleinen Wirtschaftskreises ausgeschlagen, während die Politik der National-Sozialistischen Regierung dahin gerichtet ist, das Wohl der Allgemeinheit insbesondere der arbeitenden Bevölkerung anzustreben, was bei den bei uns vorliegenden Nachrichten auch die Politik der Manchoukuo-Regierung ist.

Aus diesen Überlegungen heraus ist Deutschland bereit der Manchoukuo-Regierung die Abnahme von Sojabohnen in Höhe der letztjährigen Einfuhr nach Deutschland (etwas für Mark 120.000.000.- für eine

sofort nach provisorischem schriftlichem Uebereinkommen mit der Manchoukuo-Regierung telegrafisch nach Berlin zu wenden, da die Anerkennung des Staates Manchoukuo durch die deutsche Regierung im Zusammenhang mit dem Wirtschaftsabkommen steht.

Die Grundidee des Ganzen ist: Festigung der Wirtschafts-politischen Beziehungen zwischen Manchoukuo, Japan und Deutschland.

Für eine detaillierte Besprechung vorstehender Ausführungen stehe ich jeder Zeit zur Verfügung.

Ferdinand Heye (Sgd.)

驛 括 本覚書所は、| |四| |十一| |五| 在滿州國農政大使より

広田外務大臣宛公使公機密第| |一| |八| 号の別添レコード

捺付された。

~~~~~

滿州國外交部渾商同作成、「獨逸通商代表ハヘ  
ムヘ劉瀧通商題題(未定稿)」より抜粋  
「ハニ覚書は於て在滿州國谷大使館參事官  
實業部、財政部ヲハ密貿易課任ハ獨逸通商狀況、ハハム」  
ハ母田實現ハ場合リ生ハ同キ經濟的影響等ハ關係ハ詳細調査  
ヤハマル事ハ打合セタル趣ナリ

(文 記)

| |四| |十一| |五| 在滿州國農政大使より  
實業部、財政部ヲハ密貿易課任ハ獨逸通商狀況、ハハム」  
如キ意見ハ述べタ  
第一物々交換案 ハイムハ申出ハ如キ物々交換案ハ關係  
復雜ハ付瀧洲國單獨リトハ實行困難リシト或ハ瀧洲ノ口

noch näher festzulegende Zeittdauer zu garantieren unter der Voraussetzung, dass die Manchoukuo-Regierung von Deutschland in der gleichen Höhe Industrieprodukte zu beziehen sich verpflichtet.

Zur Ausführung dieses Planes hat Deutschland bereits in Berlin eine unter Kontrolle der Regierung stehende Gesellschaft gegründet und Vorbereitungen getroffen, eine Parallelstelle in Manchoukuo sofort einzurichten, durch welche allein alle von der Manchoukuo-Regierung gewünschten Industrie-Produkte bezogen werden sollen. Deutschland schlägt vor, dass die Manchoukuo-Regierung sich eine entsprechende Stelle für die Ausfuhr der Sojabohnen schafft, wodurch die Regierung ja auch in den Besitz des gesamten Ertrages für den Verkauf der Sojabohnen kommt, für welche Beträge sie andererseits in die Lage versetzt wird, deutsche Industrie-Produkte zu kaufen.  
<sup>(Bundesarchiv)</sup>  
Bezüglich der entgültigen Ratifizierung des Vertrages bin ich vom Reichskanzler beauftragt, mich

ツクヲ相手トルナラハ可能性アルヘキモ但シ一般商人

ノ利害緊密ナルニ付相當實行困難アラン

第三承認問題 獨逸カ滿洲國ヲ承認スルハ難有モ對列強關係及ヒ對聯盟關係ニ及ホス影響ニ想到スレハ滿、獨、日

ノ結合ハ他方ヲ刺戰<sup>(戦)</sup>シ一九三六年ノ危險ヲ控ヘ國際的ニ日本ノ立場ヲ不利ニ導キ又日本商品ニ對スル歐米市場ノ壓迫ヲ誘發スル虞ナキヤ等考慮ノ要アリ兎モ角本問題ハ日本政府トモ十分協議ヲ遂クル必要アリ更ニ在獨日本大使ニモ打電内情調査ヲ行フヘシ

編注 本文書は七月二日付在滿州國菱刈大使より廣田外務大臣宛公信公普第一一二二号の付属として送付された。

555 昭和9年2月23日 在獨國永井大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

ハイエ覚書に対する獨国外務省の意向について

ベルリン 2月23日後発  
本省 2月24日前着

(欄外記入) 満發貴大臣宛電報第一五二號ニ關シ  
「ハイエ」ノ覺書ニ依レハ「ハイエ」ハ滿洲國ヲシテ大豆ノ對獨輸出額丈ケ獨逸工業品ノ輸入ヲ保障セシメントスルト共ニ右場合ニ對スル獨逸ノ滿洲國承認ヲ仄シ居ルヤニ感セラル處滿洲國承認ニ付テハ政府當局殊ニ外務省筋トシテハ歐洲政局ニ於ケル獨逸ノ一般的地位ニモ鑑ミ差當リ之ヲ行フ意嚮ナキモノト認メラルノミナラス獨逸トシテハ支那ノ「ボイコット」ヲ恐レ居ルハ事實ナリ而シテ大豆ノ輸入額丈ケ對滿輸出ノ保障ヲ取付ケントスル案ニ付テハ外務當局ニ於テハ之ヲ事實困難ト認メ餘リ眞面目ニ考慮シ居ラサルモノト認メラル處獨逸ノ大豆輸入ニ付テハ往電第四號ニ拘ラス客年在滿大使宛往電第四號及第五號ノ通り獨逸トシテ實際上一定量ハ輸入セサルヲ得サル經濟的必要ヲ有スルノミナラス我方トシテハ大豆ノ對獨輸出額ノ假リニ一部分ニ付テモ獨逸工業品ノ輸入ヲ保障スルカ如キハ尙大ニ考量ヲ要スル點アリ

而シテ更ニ「ハイエ」ノ案ハ獨逸カ直接滿洲ヨリ大豆ヲ輸入セントスルニアル處從來獨逸ハ英國及丁抹ノ手ヲ經テ大

部分輸入シ居ルト共ニ是等兩國ノ大豆取引ノ地位強固ナリ

從テ將來若シ獨逸カ大豆ノ輸入ニ關シ何等カ制限的措置ヲ執ルコトアルヘキ場合ニハ是等ノ國ノ間ニモ影響ヲ生スヘシ

「ハイエ」ノ案ニ對シテハ慎重御攻究ノコトトハ存スルモ右ニ付テハ前記事情ヲ篤ト考量ニ入レラル様致度爲念電報ス

滿ヘ轉電アリタシ

(欄外記入)  
此通ト思ワル

556 昭和9年2月27日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

ハイエと関東軍參謀長および滿州國政府幹部などとの会談内容について

新京 2月27日後発  
本省 2月28日前着

第四六號

滿發貴大臣宛電報第一五二號ニ關シ

「ハイエ」ハ參謀長ト會見同人ノ提案ヲ説明シタルニ對シ參謀長ヨリ客年九月會見ノ際ト何等見解ニ變化無キ次第ニ獨逸ニ於テ先滿洲國ヲ承認スルニ非レハ何等具体的のノ交渉ニ入ル能ハサル事及「ハイエ」ノ提案ハ其ノ影響スル處重大ニシテ慎重考慮ノ後ニ非サレハ何等意見ヲ述フル事ヲ得サル旨述ヘタルカ同人ハ引續遠藤總務廳長ト會見同廳長ニ於テモ大体同一趣旨ニ依リ應酬シタル趣ナリ一方同人ハ外交部加藤課長<sup>(科)</sup>ト數回會見シタルカ前以テ同課長ヨリ當方ニ對シ應酬振ニ付内相談有リタルヲ以テ參事官ヨリ大體在獨大使發閣下宛電報第四六號ノ次第ヲ内報シ慎重考慮ノ上東京方面トモ充分ノ聯絡ヲ取リタル上ナラテハ苟モ「コミット」スルカ如キハ事控ヘラレ度旨注意シ置キタルカ其ノ後同課長ヨリ入手シタル會見錄ニ依レハ「ハイエ」ハ物々交換ノ主義大綱ヲ協定スル事ニ依リテノミ獨逸ノ滿洲國承認カ可能ナル事、物々交換ハ必シシモ總額均衡ヲ望ムモノニ非サル事、若シ滿洲國側ニ於テ本件ハ事重大ニシテ早急ニ解決出來サルヲ以テ先承認問題ヲ解決シ同時ニ通商增進案ニ付討議スル事トシ度キ意嚮ナルニ於テハ其ノ趣

旨ヲ書物トシテ貰ヒ度旨述ヘ居レルニ對シ加藤ヨリ假令正式代表ナリトモ外交關係無キ國ノ代表ニ滿洲國政府ヨリ書物ヲ交付スル事ハ困難ナルモノ本件ニ對スル獨逸政府ノ出方ヲ見タル上決シ度キ旨應酬シ「ハイエ」ヨリ一應本國ニ交渉スル事ヲ約シ居レリ委細郵報

獨ヘ轉電セリ

557 昭和9年2月27日 在満州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

佛へ轉電セリ

委細郵報

### 仏國モパン社と東亞土木會社による合同出資企業設立契約は歡迎すべきものとの認識について

付 記 三月十四日、滿鉄東京支社より入手

モパン社との契約に関する滿鉄の東亞土木よりの事情聽取調書

新 京 2月27日後発  
本 省 2月28日前着

第二八五號

貴電第一六四號ニ關シ

在佛大使發閣下宛電報第八一號ノ如キ契約ニ署名シタルコ

(欄外記入)

(付 記)  
調 書 (東亞ヨリノ聽取書)

一、契約調印マテノ經過概要

本年一月初旬頃印度支那銀行及巴里和蘭銀行其ノ他ヨリ成ルシンジケート代表者ト稱スルプロツサルモパン會社重役メルレナル者滿蒙投資ノ目的ヲ以テ來滿シ滿鐵ニ直接交渉ヲ試ミタルモ具體化セサリシヲ以テ同人カ其ノ儘停頓ヲ來ス恐ナキヤラ危惧シ東亞トシテハ緊急ナル資金ノ必要ニ迫ラレ居ルニ非サルモ此ノ際東亞カ右財團ト關歸國スルニ於テハ佛國方面ヨリ將來滿洲方面ヘノ投資ニ

係ヲツケ置クハ將來滿洲國ヘノ誘資上或ハ有利ナル結果ヲ來スヤモ難計ヲ考慮シ只同人ト手ヲ切ラサル程度ニ契約スル意味ニテ契約ヲナセルモノナリト東亞ノ當局ハ事後ニ於ケル釋明ヲナセリ

三、契約ノ内容

契約ノ内容ハ別紙<sup>(金額)</sup>ノ通ナルカソノ主ナルモノハ

(一) 東亞トモパントニ於テ合資會社或ハ組合ヲ設立スルコト

(二) 資本金ハ金拾萬圓トシ各半額宛出資スルコト

(三) 事業ノ目的ハ工事ノ請負及材料納入ヲナスコトヲ以テ

目的トスルコト

(四) 技師長ハ東亞カラ出シ工事一切之ニ委シ、モパンヨリ

會計主任ヲ出シ金融ヲ司ラセ且技師長ヲ補佐スルコト

(五) 流動資金ハ事業ノ見込如何ニヨリ普通ノ金利ヲ附シモ

パンヨリ無制限ニ供給スルコト

(六) メルレハ一旦歸國ノ上モパン重役會議ノ承認ヲ得ルヲ

要シ東亞ハ同社重役會議ニ諮リタル上更ニ滿鐵及主管大臣ノ承認ヲ得ルヲ要スルモノナルコト

トハ事實ニシテ本契約ニ對スル滿鐵ノ意嚮ハ數日中ニ開カルヘキ重役會議ニ於テ決定スルコトトナレル趣ナリ當方トシテハ「ドリル」「ドリビエ」等ノ佛國財團ノ對滿投資薄トナリタル日本件契約成立ノ如キハ其ノ内容力相當東亞側ニ有利ナルモノナルニモ鑑ミニ寧口歡迎スヘキモノト思考シ居レリ

尚前記借款ノ建値ヲ満圓建トシ爲替ノ危險ヲ佛蘭西側モ可ナリ斯ル場合ニハ佛國政府ノ認可ヲ得ル見込アリ

(三) 借款ノ擔保ハ強テ要求セス

佛蘭西側カ右ノ如ク相當有利ナル條件ニテ相談ニ應セントスル理由トシテハ大凡次ノ事情カ考ヘラレル

(一) 佛蘭西側トシテ望ムトコロハソノ技術及物資ノ供給ニアルモノノ如キモ技術ノ進出ハ目下望ナク結局物資供給ノ機會ヲ作りタク、借款ニヨリ會計主務者ヲ入ルルコトニヨリ該機會ヲ作ラントセルニ非スヤト察セラルコト

(二) 工事ノ利益ヲ折半シテ得フルル外尙長期ニ亘リ金利ノ利益カ得ラルルコト

(三) 東亞カ滿鐵ノ傍系事業ニシテ主トシテ滿鐵關係工事ヲ請負ヒ居ル關係上東亞ヲ信用シ之ニヨリ將來滿鐵ト關係ヲツケル足場トナス豫定アルニ非スヤト考ヘラルルコト

四、關係者ノ人物・信用(東亞ノ調査ニ據ル)

(一) 佛蘭西側投資シンジケートハ印度支那銀行巴里和蘭銀行外極東ニ關係アル銀行ヨリ成ル

(二) モパンハ巴里和蘭銀行ノ傍系會社ナリ

同社ハアヅリナル者ヲ極東支配人トナシ嘗テ天津ニ在

住セシメタルコトアリ且下歸佛中ナルカ投資シンジケートノ代表權ヲ附與セラレ三月中旬頃來滿スル由

嘗テ日本ニモ在住シ室蘭製鐵所ノ建設ソノ他ニ割込運動ヲナシタルコトアリト謂ヒ又昨夏哈爾濱市水道事業ノ投資ヲ申出タルコトアルモ同市ノ信用薄弱ナリトテ

實現セサリシ由、日本知名ノ士ニ知己多キモノノ如ク今回來滿スルニツキテモ外務省、關東軍其ノ他ヨリ滿鐵重役宛紹介狀ヲ持參セリト

尙ドリル、ドリヴィエ兩財團トモ本財團ト協力スルニ非サレハ極東方面ヘノ投資ハ困難ナルヘシト謂フ

四六光社 安田 信

同人ハ哈爾濱在住ノ材木商ナリ、メルレノ秘書ト稱スルレオンデュミシチユール(哈爾濱在住ノ佛人)ト面識アリシヲ以テ同人ヲ介シメルレヲ東亞ニ紹介シ來レルモノナリ

滿洲國方面ノ建設事業引受ノ目的ヲ以テ在哈佛人某ト六光社ナルモノヲ組織シ佛蘭西投資團ヨリ融資ヲ受ケントセシモ信用薄弱ノタメ拒否セラレタルコトアリ

佛蘭西投資團ハ滿鐵カ又ハ其ノ傍系事業ヘノ投資希望アリシヲ以テ今回東亞ニ紹介セルモノナリト謂フ  
今回ハ單ナル媒介者並通譯者タルニ留ルモ或ハ何等カノ利權ヲ求メ居ラストモ限ラス

東亞第一五七號

昭和九年二月二十一日

東亞土木企業株式會社

専務取締役 柳生 龜吉

(欄外記入)  
昭和九年三月十四日滿鉄東京支社ヨリ入手

拜啓 益御多祥之段奉大賀候陳者去ル一月初旬佛國巴里、

ルシアン、メルレ氏ハ滿蒙方面へ投資ノ目的ヲ以テ佛國印度支那銀行、巴里和蘭銀行等ニヨリテナレル銀行シンヂ

ゲート團ヲ代表シテ來連致シ滿鐵其ノ他ニ多少ノ交渉ヲ試ミタルモ急ニ具體化セサル由ニテ同人カ其ノ儘歸國スルニ

於テハ佛國方面ヨリ將來滿洲方面ヘノ投資ハ停頓ヲ來スヤモ難計ヲ考慮シ極々輕キ意味ニ於テ只同人ト手ヲ切ラサル

558 昭和9年3月6日 在滿州國菱刈大使より

広田外務大臣宛(電報)

滿州國承認問題などに關するハイエと滿州國外交部係官との會見内容およびハイエ提出の獨滿經濟協約に關する説明書について

新 京 3月6日後発  
本 省 3月7日前着



- ルノ要アリ短時日ニハ到底其成否ヲ見極メルコトハ出來ナイ  
殊ニ大豆取扱商及ヒ機械類輸入商乃至機械需要者等トノ利害モ相當復雜<sup>(複雜)</sup>タカラ其統制ハ仲々容易テアルマイ  
ハ、其點ヲ謂ヘハ獨逸側トシテハ一層困難テアルカヒト  
ラ一首先カ所謂獨裁的ニ押ヘテヤロウツスルモノテア  
ル  
加、日本ヤ滿洲ハ自由取引テアルカラ一部テモ貿易ノ管理ト云フ如キハ異論カ多イ尤モ最近日印協商ノ例ハアル  
カ兔角此種問題ノ解決ハ餘程ノ根氣ト幾多ノ交渉カ必  
要テアロウ  
ハ、勿論幾分共可能性アル様ナラ自分ハ一ヶ月テモ數ヶ月  
テモ纏マル迄滯在シ御協議致度ト思フ  
加、貴案ノ外ニ一般ノ通商協定例ヘハ既存獨支間條約ニ基  
ク権利義務ノ確認、居住營業權、關稅率、相互協定等  
ノ大綱ニ涉リテモ取極メヲ爲サルル考ナリヤ  
ハ、勿論一般事項ニ關シテモ滿洲國ノ案モアラハ承リ政府  
ヘ申送ルヘシ  
加、然ラハ一般通商關係ヲ樹立スルト云フ一個ノ假協定ヲ  
ハ、勿論同額均衡ヲ望ムモ其間相當ノ開キハ已ヲ得サル可  
シ  
加、一億二千萬マークニ對スル四、五千萬マーク以上トカ  
云フ程度ナラ全然見込ナイコトモナカロウカ貴國カ今  
直チニ八千萬九千萬以上ノ賣込ヲ策セラレルコトハ困  
難ナラン  
ハ、滿洲國カ他國例ヘハ英米等ヨリ買込レツツアル商品ニ  
付獨逸カラ供給出來ルモノ相當アルナラン  
加、商賈<sup>(貿易)</sup>トナレハ品值相場ノ關係モアリ多大ノ不利ヲ忍工  
ハ、滿洲國ノ貿易ノ實行困難ナラン  
ハ、獨逸テハ滿洲貿易ニ關スル限り卸賣值ニテ大勉強ヲ爲  
ス積リニ付他國品トノ競争ニハ負ケヌ積ナリ  
加、滿洲國ノ購入ス可キ商品ハ獨逸ニテ中繼ノ他國商品モ  
含メラルモノナリヤ  
ハ、獨逸ノ労働者ヲ使用シテ製產セル商品ニ限り度  
加、然ラハ獨逸品ナラハ滿洲國設定ノ勘定ニテ日本國ノ商  
人カ買付ケテモ可ナリヤ  
ハ、日本ト滿洲國トハ利益密接ニ付其點ハ差支ナカル可シ  
ト思フ  
加、獨逸ニテ獨占的大豆輸入會社設立ノ上ハ他ノ獨逸商社  
トノ大豆輸入ハ許可セラレサルヤ  
ハ、然リ獨占的ナリ  
ハ、然ラハ滿洲側ノ大豆輸出商ハ貴國ノ該獨占會社ヲ相手  
ニセサレハ賣込不可能トナルヤ  
ハ、然リ  
夫テハ滿洲側ノ輸出高カ獨逸以外ノ國ヘ一旦輸出シ其  
國ヲ經由シテ獨逸ニ輸入セラルトキハ如何  
ハ、滿洲大豆ニ關スル限り滿洲國政府及特許會社ヲ通シテ

- 作り其協定中ニ速カニ双方ヨリ委員ヲ出シ通商條約ヲ  
研究スルト同時ニ貴案ノ如キ貿易増進ノ具体案ヲ協議  
スル事ヲ約束シテハ如何  
ハ、貴殿ノ如キ假協定ニテハ困ル、少クトモ假協定中ニ所  
謂物資交換案ノ主義大綱ヲ認メテ貰ヘネハ同意出來ナ  
イ  
加、然ラハ獨逸ハ滿洲國大豆ヲ一億二千萬マーク購入スル  
代リ滿洲國ヘ夫ト同額ノ獨逸品ヲ賣込マネハ満足出來  
ナイ理テスネ、勿論理想トシテハ結構タカラ滿洲國ノ購  
買力ノ現状ヨリシテハ到底見込ナイト思フ  
ハ、勿論同額均衡ヲ望ムモ其間相當ノ開キハ已ヲ得サル可  
シ  
加、一億二千萬マークニ對スル四、五千萬マーク以上トカ  
云フ程度ナラ全然見込ナイコトモナカロウカ貴國カ今  
直チニ八千萬九千萬以上ノ賣込ヲ策セラレルコトハ困  
難ナラン  
ハ、滿洲國カ他國例ヘハ英米等ヨリ買込レツツアル商品ニ  
付獨逸カラ供給出來ルモノ相當アルナラン  
加、商賈<sup>(貿易)</sup>トナレハ品值相場ノ關係モアリ多大ノ不利ヲ忍工  
ハ、滿洲國ノ貿易ノ實行困難ナラン  
ハ、獨逸ニテ獨占的大豆輸入會社設立ノ上ハ他ノ獨逸商社  
トノ大豆輸入ハ許可セラレサルヤ  
ハ、獨逸ニテ獨占的ナリ  
ハ、滿洲國カ蘇聯商或ハ英國商等ヨリハ購入セサル事トスル  
加、大連ニ於ケル日本側輸出商等ハ喜ハサル可シ  
ハ、彼等ハ獨逸以外ノ國ヘノ輸出ニ努力シテハ如何  
加、一体滿洲國カ貴國ヨリ購入シ得可キ商品範圍如何  
ハ、機械、鐵鋼製品、電話器、車輛、自動車、電氣器具類、  
染料、工業藥品類等アリ  
加、滿洲國ヨリ獨逸ヘノ輸出ハ原料品ニシテ獨逸ヨリ滿洲  
ヘノ輸入ハ精製品ナリ原料品ハ自然ニ放任シテモ獨逸  
トシテ要ルモノハ要ルニアラスヤ  
ハ、米國ノ亞麻仁其他ヲ以テ相當補充ノ途モアルカラ絶對  
ニ滿洲大豆ニノミ賴ルモノテハナイ然シ獨逸カ一定量  
ノ購入ヲ約束スルカラ滿洲農村ニハ非常ニ效果アルト  
思フ  
加、御意見ハ充分諒解シマシタカラ至急他關係部トモ相談  
ノ上今後ノ本交渉ヲ如何ナル形式テ進メル可キカヲ定  
メ度ト思ヒマス  
ハ、自分ハ出席ノ要ナキヤ、日本側ヨリハ出席セラルルヤ  
加、貴殿ハ差當リ出席ノ要ナシ、日本側トハ當方ニテ連絡

スルコトヲ約  
加、右覺書中ニ所謂二月二十三日小磯參謀長へ提示ノ計畫

云々ハ書面ニシテ提出セラレシヤ又ハ口頭ニテ爲サレ

シヤ  
去二十一日外交部へ手交セラレシモノト同一內容ナリ

加藤事務官  
二月二十五日午后三時半於ヤマトホテル

○獨逸代表ハイエ氏會見錄

「ハ」自分ノ希望ハ小磯參謀長へ提示ノ自分ノ計畫(對滿投資並物々交換案)ヲ實行スルコトニ關シ滿洲國側ヨリ約束ヲ取付ケ度トテ左記ノノートヲ提示セリ(本ノートハ二月二十四日晚後藤、上田氏ヨリ豫メ小生ニ内示アリ)滿洲國政府ハ昨年九月七日小磯關東軍參謀長ヨリハイエニ手交セル覺書ニ關聯シ左ノ件ヲ聲明ス

獨逸政府カ滿洲國ヲ承認シタル直後ニ於テ本月二十三日ハイエヨリ小磯參謀長ニ開陳シタル經濟的提携ニ關スル計畫ノ精神ニ基キ實行セントスル義務ヲ負フコトヲ約ス

滿洲國政府ハ三月一日迄ニ承認ノ聲明アルコトヲ歡迎ス

承認直後細部ニ涉ル經濟計畫實行ニ關スル交渉ヲ開始

ハ、口頭ニテ爲セリ尤モ昨年九月ニ小磯參謀長ニ遇ヒタル際ハ對滿投資即チ日獨滿合辦銀行案ヲモ申述ヘシカ當時小磯參謀長ヨリ投資計畫ノ如キハ滿洲承認後ノ問題ナリトノ主旨御話アリ又張實業部總長ヨリモ現在滿洲テ困ツテキルノハ大豆問題故獨逸トシテハ之ヲ先ニ解決ノ要アリト申渡サレシニ付自分モ一旦獨逸ニ歸リ各方面ト協議ノ結果先ツ承認問題ト共ニ大豆問題即チ物物交換案ヲ第一問題トシ今回再來セシ次第ニ付今回ハ小磯參謀長ヘモ自然合辦銀行案ハ撤回ノ姿トナリ承認ト物々交換案ヲ主トシテ力説セシ次第ナリ其結果同參謀長ヨリノ御紹介ニテ二月二十三日遠藤廳長ヘモ御遇セシモノナリ

ハ、我々トシテハ貴殿カ小磯參謀長へ提示セラレタル物々

交換案ニ付申上度カ同案ハ實行困難ト思フモ取敢ヘス實狀調査中テアル從ツテ今直チニ該案ニ對スル假契約書ノ如キモノヲ取運フコトニ技術的ニモ亦事務的ニモ不可能ト思フ

ハ、然ラハ自分ノ提示セシ案ニ對スル滿洲國側乃至外交部方面ノ大体意向ニテモ承知シ度

加、例ヘハ(一)獨支間條約ヲ確認シテ新タニ獨滿承認カ成リ(二)其ト同時ニ新通商條約乃至ハ(三)貴殿ノ計畫セラルルカ如キ通商增進案ノ如キヲ討議スルカ如キ順序ニ話ヲ進ムレハ宜敷カラント思ハル

ハ、然ラハ其主旨ヲ滿洲國側又ハ外交部ヨリ公信或ハ半公信ニテ自分迄申込ンテ貴フコト出來サルヤ遠藤廳長ヘモ此事ハ御願ヒシテアルカ

加、夫ハ差當リ困難ト思フカ貴殿ニ於テ先ツ其主旨ニ依り案ヲ作成セラレ一應貴國政府側ト相談サレ政府側ノ意向ヲモ確メラレタル上改メテ貴殿ヨリ提案セラレ而シテ滿洲國側ニ於テモ假契約迄取運フコトノ可否ヲ研究スルコト致シテ如何

ハ、若シ獨逸政府ヨリ直チニ滿洲國承認ノ應諾シ來レルカ

獨逸代表ハイエ會見錄(第三回)

三月三日午前十一時 於外交部

問、神吉司長及加藤科長

答、獨逸代表ハイエ氏

問、去二月二十五日ヤマトホテルニテ面會ノ節申上タル當方試案即チ滿洲國ノ承認ト共ニ通商案ノ討議開始ヲ約スルコトニ付貴國政府ニ照會セラレシ事ト思フカ夫ニ對スル返事如何

答、本國政府ヨリハ左ノ要領ノ返電カアツタ即チ

二月二十七日柏林發電報

政府ノ通商關係ニ係ル案件ノ締結其ノモノハ已ニ満

洲國家ノ經濟的獨立ヲ承認シタルヲ意味スル法理的

承認ハ未タ論議スル時期ニ達セスシテ先ツ第一ニ大

豆統制ノ經濟問題ヲ議セラレ度

右様ノ次第故自分トシテハ先ツ通商案ノ話ヲ進メ承認問

題ニ對シテハ目下ノ處何トモ云ヘヌ然シ滿洲國側テ通商

案ニ承認ヲ結付ケラレルコトハ差支ナカル可キカ

問、通商案ト承認案ヲ如何ニ結付ケラレルヤ

答、夫ハ通商案ノ一項ニテ承認ヲ本協約ノ批准ノ條件トセ

ラレテハ如何

問、然ラハ結局貴國カ我國ヲ先ツ承認セサレハ通商案ハ縱

令假案ハ出來タトシテモ實行出來サル次第ニテ當方ノ試

案ト同一結果トナルニアラスヤ

答、結果ハ同一ニテモ形式カ違フ

問、我方トシテハ貴國カ承認問題ヲ後廻ハシトサレントス

ル以上所謂通商案ノ討議ヲ先ニ進メル事ニ贊成出來ルヤ

疑問ナリ此點ニ付テハ關係當局トモ協議ノ要アルカ貴方

ノ通商案ナルモノハ二月二十二日最初ノ會見ノ際提示ア

リタルモノト同一ナリヤ

答、然リ

(欄外記入)

問、我方トシテハ貴國カ承認問題ヲ後廻ハシトサレントス

ル以上所謂通商案ノ討議ヲ先ニ進メル事ニ贊成出來ルヤ

ノ通商案ナルモノハ二月二十二日最初ノ會見ノ際提示ア

リタルモノト同一ナリヤ

問、該案中ノ滿洲國勘定トシテ滿洲以外ノ土地例へハ日本

揚ケノ購入費ヲモ含メテ可ナルヤ  
答、夫ハ差支ナカルヘシ  
問、運送船舶ノ關スル何等カノ考アリヤ  
答、運賃市場ニ於テ自由ニ傭船セハ可ナルヘシ  
問、貴國側ニテハ全ク大豆輸入ノ獨占トナルニ付市價ノ低下ヲ圖ル爲滿洲側市價ヲ壓ヘル結果ヲ招來セサルヤ  
答、倫敦市場等ニ見テ適宜市價ヲ相談決定ス可キテ獨逸ト

問、該案ニテハ明瞭ヲ欠クモノアルニ付今少シ詳細説明書

アラハ参考迄ニ提出セラレ度  
上田氏ヨリ別紙案提出アリ)

問、通商案ノ討議ニハ例ヘハクノール商務官其他駐滿獨逸

領事モ參加スルヤ

答、否、本問題ハ自己ノ使命ニ付彼等ハ關係セサルヘシ

問、滿洲國トシテハ到底貴國ニ對スル大豆輸出額ト同額迄

ノ貴國物品ヲ購入スル力ナシト思ハル

答、必ラスシモ同額ト云フニアラス其點ハ多少ノ融通性ア

ラン

問、該案ニテハ全ク大豆輸入ノ獨占トナルニ付市價ノ低

下ヲ圖ル爲滿洲側市價ヲ壓ヘル結果ヲ招來セサルヤ

答、倫敦市場等ニ見テ適宜市價ヲ相談決定ス可キテ獨逸ト

シテハ他國中間商ノ手數料ヲ省略シ安價ニ買付ケ得可キ

モ滿洲國側農民ノ收入ハ寧ロ好影響ヲ受クヘシト思フ

問、特殊會社ハ手數料ヲ徵スルヤ

答、經營ノ費用ヲ稼ク爲取扱高ニ對シ何分カノ手數料ヲ徵

收スルコトハ必要ナラン

問、現在獨逸カ毎年外國ヨリ購入シツツアル油脂原料幾何

ナリヤ

答、一寸數字持合セナキモ通商案成ラハ獨逸トシテハ所要

原料ノ全部ヲ滿洲大豆ニ仰キ度

問、本問題ハ關係スルトコロ重大ニ付オ互ニ慎重ニ研究ス

ルヲ要ス

答、勿論ナリ

以上

獨滿經濟協約二關スル解說(三月四日ハイエ氏提出)

獨逸ハ滿洲國ニ對シ自國通商代表ヲ通シ左ノ計畫ヲ提出ス

前言

獨逸ニハ大豆ニ代フルニ更ニ廉價ナル南米ノ亞麻尼又ハ諾威ノ鯨油ノ如キモノヲ以テセントスル傾向アリ此兩原料ハ

シテ此價格ト獨逸需用者ニ對シ高ク確定セル賣價トノ差異

ハ諸外國例へハ和蘭、ト株<sup>(株)</sup>、英國ノ中間商人ヲ利シ其大部  
ハ滿洲ニ於テ喪失シシナルヤノナリ  
吾人ノ此計畫ニ由レハ滿洲國ハ全賣掛代金ノ所有者タルト  
同時ニ獨逸工業製品購入ニ要スル外國爲替貯蓄ノ所有者タ  
ルコトヲ得シ

右業務遂行ノ爲伯林ニ於テハ凹口リ一會社ノ創立ヲ見(有限  
責任獨滿貿易會社)且ウ茲ニ擬議セル協約締結後直チニ滿  
洲國內或ハ都合リ由リテハ大連リ又同様ナル會社ヲ創設  
スルコトヲ決定シアリ

滿洲國ヘ契約スベキ全註文ハ滿洲國內ニ創立セラルベキ會  
社ニ興ヘラルベキモノニシテ之ハ獨逸側ニ於テ中間商人ノ  
手ヲ經ルコトナク直接物品購入ニ任スベキ在伯林ノ會社ノ  
仲介ニ由リ供給セラルベキモノトス  
船荷證券ノ交付ニ致シ滿洲國ハ在滿會社ニ爲替手形ヲ發給  
スベキナリ斯クノ如クシテ之ハ獨逸ノ物品供給者リ而渡ベ  
爲伯林ニ於ケル滿洲國ノ口八ト此金額ヲ而由ハ得サ  
ルベカラス  
抑々此價格ナルヤノハ中間商人ヲ介在スルコトナク註文ヲ  
發シタルニ由リ船荷證券交付レ回時ニ滿洲國側ニ於テ總付

ノ送狀額面金額ニ對シ圓價一觀ニ相當スル金額ヲ現金ヲ以  
テ滿洲國內ニ設立シタル獨逸會社ノ利權ノ爲支拂ハルルヲ  
要ス即チ之ハ右會社ニ要スル雜費ニ充當セラルベキモノナ  
リ

Hsinking, 3.3.34.

Expose ueber ein Wirtschaftsabkommen zwischen Deut-  
schland Manchoukuo.

Deutschland unterbreitet Manchoukuo hiermit  
durch seinen Kommissar fuer den Handel zwischen  
Manchoukuo und Deutschland folgenden Plan:  
Vorgang: In Deutschland liegen Bestrebungen vor,  
statt der Sojabohnen billigere Produkte, wie Leinsaat  
aus Sudamerika oder Walfischtran aus Norwegen zu  
beziehen, welche beiden Produkte fuer die Margarinefa-  
brikation ebenso gut, zu verwenden sind, wie die So-  
jabohne. Manchoukuo ist sicher bestrebt, Vorkehrun-  
gen zu treffen, seinen Bauern den Absatzmarkt in  
bisheriger Hoehe zu erhalten.

Daher folgender

Vorschlag: Deutschland wird die Garantie geben, ein  
noch festzusetzendes Quantum an Sojabohnen, welches  
etwa der Einfuhr an Bohnen nach Deutschland im Jahre  
1933 entspricht, fuer die Dauer von zunaechst 3 Jahren  
weiter einzufuehren, unter der Voraussetzung folgender  
Vereinbarungen: Manchoukuo richtet sich bei der Reich-  
skreditgesellschaft Berlin ein, auf welches die  
deutschen Importeure, d. h. die Verbraucher der So-  
jabohnen, die Betraege einzuzahlen haben, die dem  
bisherigen Einkaufsverhaeltnis entsprechen. Manchou-  
kuo kommt durch die Einrichtung dieses Kontos bei der  
Reichskreditgesellschaft direkt in den Besitz des vollen  
Wertes der gelieferten Bohnen. Fuer die diesem Konto  
eingezahlten Betraege muesste sich Manchoukuo verpf-  
lichten deutsche Industrieprodukte zu kaufen, die es ja  
fuer den Aufbau des Landes benoetigt und die es gros-  
senteils schon heute von anderen Laendern bezieht. Mit

diesen Plan ist fuer Manchoukuo noch folgender Vor-  
teil verbunden: Bisher erhielt der Mandschurische Bauer  
lediglich eine geringe Bezahlung fuer die Bohnen. Die  
ganze Spanne zwischen diesem Preis und dem Hohen  
endgültigen Verkaufspreis an den deutschen Verbrau-  
cher ging dem Lande Manchoukuo groesstenteils verlor-  
en zugunsten fremder Zwischenhaendler, wie beispiel-  
sweise Holland, Daenemark, England. Nach unserem  
Plan soll Manchoukuo in den Besitz des vollen Verkauf-  
spreises kommen, wodurch Manchoukuo gleichzeitig in  
den Besitz desjenigen Devisenbestandes kommt, der  
zum Einkauf deutscher Industrieprodukte noetig ist.  
Zum Aufbau dieses Geschäftes ist bereits in Berlin eine  
Gesellschaft gegründet worden (Deutsch-Mandschuris-  
che Ex und Import G. m. b. H.) ebenso ist entschieden  
worden, sofort nach Abschluss des vorgeschlagenen  
Abkommens eine entsprechende Gesellschaft in Man-  
choukuo bzw. Dairen zu gründen. Alle Auftraege, die  
Manchoukuo zu vergeben hat, wurden an die hier zu

errichtende Gesellschaft gehen, die ihrerseits durch die Vermittlung der Berliner Gesellschaft fuer einen direkten Einkauf, d. h. ohne Zwischenhandel sorgen wuerde. Gegen Aushaendigung der Verschiffungspapiere wuerde dann Manchoukuo eine Anweisung an die hiesige Gesellschaft aushaendigen, woraufhin diese bei dem Konto Manchoukuo Berlin die Betraege erheben koennte, um dieselben an die deutschen Lieferanten abzufuehren, Gleichzeitig muesste, da die Preise ohne Zwischenhandel aufgegeben werden, bei Ablieferung der Verschiffungspapiere seitens Manchoukuo eine Barzahlung in ¥ in Hoehe von 10% von allen Fakturen betraeegen zugunsten der in Manchoukuo gegründeten deutschen Gesellschaft geleistet werden da aus diesen Abgaben die gesamten Unkosten beider Gesellschaften zu tragen sind.

560 昭和9年3月10日 在獨國永井大使より  
廣田外務大臣宛(電報)  
バイヒ派遣事情に関する獨国外務次官内詔に  
關する

付記 本省 3月11日前着 発  
(別添)

(欄外記入) 何故承認問題ヲカクマテ固執ベルヤ?  
~~~~~  
九日或席ニ於テ本使ハ外務次官ニ對シ略年秋「バイヒ」ハ滿洲國ニ於テ日本側當局ニ獨逸ノ滿洲國承認ヲ以タシ右承認ノ場合ニハ血口カ公使ニ任セラル筆ナル血述ヘタル由ナルコトヲ擧ケ話ア「バイヒ」ノ事ニ仕向ケタル處同次官ハ同人ハ元來物ニ熱中スル性質ニシテ餘り大ナル事ヲ計畫シ政治的問題ニヨ觸レタカル弊アリタルヲ以テ今回ハ單ニ通商ノ途ヲ開ク仕務ノミハ帶ニ冉ニ滿洲ニ送ハレタル次第ナルカ滿洲大豆ニ關シテハ獨逸トシテ或一定量ハ必然輸入セサルヘカラストスルモ國內油脂經濟計畫ニモ鑑ミ將來右輸入ハ減少コソスレ増加スルコト無シ從テ最近在日大使ニ對シ「ハイヒ」ヲシテ滿洲國トノ間ニ大豆ノ輸入ニ關シ現

第五五號 往電第四二號ニ關シ

在ノ數量ヲ基礎トシ或數量ヲ保<sup>(一文等判讀不底)</sup>スルカ如キ約束ヲ爲サシムベカラサル血電詞ヤルコトヲ内訌<sup>(二ド判讀不底)</sup>満く轉電アリタシ  
~~~~~

561 昭和9年3月19日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛

仙国人ドリガヒト滿鐵による口仮好満事業

公司に關する契約仮調印に關する

付記 1月31日付、亞細亞局第三課作成

「日佛合辦對滿投資會社設立ニ關ヘル滿鐵總裁ト佛國人「ドリガヒト」ヘノ契約調印ノ件」

公機密第三四八號 (3月27日接受)

昭和九年三月十九日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆(丘)

外務大臣 廣田 弘毅殿

「ドリガヒト」ニ關スル件

東京ニ於テ滿鐵トノ間ニ日佛對滿事業公司ニ關スル契約ニ假調印ヲシタル「ドリガヒト」  
(欄外記入) 2月9日歸佛ノ途次當

564 滿州國をめぐる諸問題

765

滿洲國政府ハ來ル七月一日ヨリノ會計年度ニ於テ若シ請負諸條件等ニシテ滿足セラルナルハ試驗的ニ新京—泰來間ノ道路建設工事(三六〇戸)請負ヲ佛國海外發展協會ヲ通シテ佛國事業家ニ委託セシムルノ意圖ヲ有ス  
尙將來如何ナル事業ニ對シ佛國ノ投資ヲ許スベキヤハ右試驗ノ結果等ヲ待チテ考慮スベシ

康徳元年三月十六日

満洲國國務院

總務廳長 遠藤 柳作

佛國海外發展協會

ド・リビエー 殿

(欄外記入)

昭和九年三月八日附ヲ以テ假調印セリ

(付記)

日佛合辦對滿投資會社設立ニ關スル滿鐵總裁ト

佛國人「ドリヴィエ」トノ契約調印ノ件

今般滿鐵ヨリ關東長官經由拓務省ニ對シ本件契約調印ニ關

スル認可ヲ申請シ來リタルニ依リ一月二十六日亞細亞局長

(欄外記入一) 主宰ニテ陸軍、大藏、拓務、外務四省係官協議ノ結果

(1) 「ドリヴィエ」カ本國財團ヨリ此ノ種契約締結ノ權限ヲ受ケ居ラサルコト明白ナルニモ不拘右契約案日本文「テキスト」ニハ「ド」ニ如斯權限アルカノ如ク記載シアルコト

(欄外記入二)

(2) 右契約案ニ於テ「ドリヴィエ」側ハ ad referendum ニテ調印シ佛國資本團ハ自由ノ立場ヲ留保シ居ルニ反シ滿鐵側ハ總裁之ニ調印シ當初ヨリ確定的ニ拘束セラルモノトナリ居リ佛國側ノミ一方的ニ有利ナル立場ニアルコト等ノ缺點アルニ顧ミ右契約案文ノ儘ニテハ之ヲ認可スルコト面白カラストノ意見ニ一致シタリ  
一方本件ニ關シテハ滿鐵カ茲迄「コミニット」シ來レル事實及對外關係上ノ影響モ考慮スルノ要アリ此ノ際何等カノ形式ニテ「ドリヴィエ」ノ面子ヲ立テ所謂「御土產案」ヲ携行シ得ル様措置スル事妥當ナリト認メラレタルニ依リ關係省間更ニ協議ノ上拓務省ヨリ滿鐵ニ對シ本件契約案文ヲ改メテ日滿兩當事者何レモ ad referendum 若クハ之ニ類スル形式ニテ契約ニ調印ノコトトシ(即佛國資本團及滿鐵本社ノ承認アルヲ俟ツテ效力ヲ發生ス尙滿鐵本社ノ承認ニ付テハ豫メ拓務省ノ認可ヲ要ス)從テ當事者トシテハ滿鐵側ハ初ヨリ林總裁ヲ出サス例ヘハ大淵東京支社長又ハ平山次長ヲシテ調印セシムルコトトスヘキ旨申聞クルコトナリ

(欄外記入一)

事前ニ滿鉄ヨリ相談アリシ次第ナルヤ

(欄外記入二)

本件ニ関シテハ芦田代議士ヨリ垂細垂局長ニ對シ好意的考慮ヲ加ヘラレ度旨屢次且熱心ニ申出ノ次第アリ

~~~~~  
562 昭和9年3月29日 在満州國菱刈大使より  
在満州國菱刈大臣宛(電報)  
~~~~~

ハイエ覚書に対する滿州國側回答文手交について

新 京 3月29日後發  
本 省 3月29日後着

第四六三號

往電第三四號ニ關シ

其後「ハイエ」ハ頻リニ滿洲國側ノ回答ヲ督促シ居タルカ  
滿洲國側ニ於テハ特務部方面トモ協議ノ上決定婉曲ニ「ハイエ」ノ提案ニ副ヒ難キ事ヲ回答スル事ニ決シ二十七日外

交部呂通商司長回答案文ヲ持參、參事官ニ對シ意見ヲ求メ來レルニ付參事官ニ於テ通讀シタル處其内容ハ極メテ抽象的ナル文句ヲ連ネ要スルニ滿洲國ノ農民ハ自給自足ノ狀態

~~~~~  
563 昭和9年4月7日 在満州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛  
~~~~~

ハイエへの滿州國側回答文手交に際する同人



ナラハ我國國民ノ最モ歡迎スルトコロナラム

殊ニ國際經濟的正常關係ヲ強制的ニ移動スル如キハ自由通商主義ヲ放棄スルモノニシテ國家貿易政策ニ來スヘキ影響ハ勿論内外國民生活ニモ必ス強キ脅威ヲ感セシムル事トナラム其ノ利害ヲ衡ルニ得ルトコロハ將ニ失フトコロヲ償ハサルニ至ルヘシ

貴提案ニ「獨逸ニ於テハ廉價ナル亞麻仁」或ハ鯨油ヲ以テ大豆ニ代ヘムトスル企圖アリシモ之ハ只一小部分ノ經濟界ヲ利スルニ過キス」ト申サレタルカ之ハ正ニ不合理ノ無キ人種間ノ正常關係ハ之ヲ破毀スヘカラサルコトヲ如實ニ證明シタルモノナリ

滿德間ノ今迄ノ經濟關係ハ凡テ國民生活上必要ナル自由通商主義ニ依リ促成サレタル正常關係ナリ

即チ滿洲國八大同元年三月十二日ノ對外通告ニ基キ凡有國家トノ間ニ正常關係ヲ成立セシムルコトヲ望ムモノニシテ德意志トノ間ニ於テモ兩國間ノ特別ノ貿易事情ヲ考慮ニ入レ可能範圍ニ於テ互惠的原則ヲ本トシ徐々ニ合理的ニ德意志ヨリ商品ヲ購求シ以テ德意志ノ經濟界ノ發展向上ニ一層ノ貢獻ヲ爲シ得ムコトヲ最モ欣快トスルモノナリ

564 昭和9年4月10日 在奉天蜂谷總領事より  
ハイエに対する在奉天獨国人の風評などについて  
(4月16日接受)

廣田外務大臣宛  
在奉天蜂谷輝雄(印)

機密第三五五號

昭和九年四月十日

在奉天

外務大臣 廣田 弘毅殿  
機密第二七二號  
昭和九年四月十日 附 菱刈大使宛往信寫送付  
在滿洲國 總領事 蜂谷 輝雄  
特命全權大使 菱刈 隆殿

一、「ハイエ」ニ對スル在奉獨逸人ノ感想ニ關スル件  
件名

機密第二七二號  
昭和九年四月十日

在奉天 總領事 蜂谷 輝雄  
在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

本信寫送付先 外務大臣

(別添甲號)

獨乙「ナチス」黨經濟特使「ハイエー」ト  
前駐日獨乙大使館附書記官ニシテ現駐奉領

事館副領事「クノール」氏トノ關係

今回獨乙政府カ一方ニハ「ハイエー」ヲ派遣シ他方ニ又同様使命ヲ以テスル「クノール」ヲ派遣シ而モ兩者間ニ何等ノ連絡ナキニ就テハ何人モ奇異ノ念ヲ禁シ難キト雖其ノ間ニハ左記ノ如キ事情介在スルモノナリ

左記

「ハイエー」ハ「ナチス」黨ヨリ選ハレ獨乙政府ノ代表トト年來ノ友交關係ニアル「ベルトラム」(獨逸商人)「ウルリツチ」(獨逸人醫師)(兩者共ニ在奉獨逸人間ノ信用薄ク右ハ殊ニ前者ト獨逸領事館トノ間ニ別添乙號奉天警察署情報ノ如キ事情伏在シ居ル爲ナルヘシ)其他一名ニ過キサル趣ナリ唯當地獨逸商業會議所ニ於テハ先般在東京、横濱獨逸商業會議所ヨリノ依頼ニ基キ今般同人活動ノ經緯ニ關スル報告ヲ作成スル事トナレリト云フ

以テ「ハイエー」派遣ハ之ヲ容易ナラシメント慮テノコトナレ共如何ニ承認前ト雖今日迄積極的ニ何等爲ス處ナカリシハ「ナチス」黨ヲシテ外務省ヲ無能視スルニ至ラシメ特使ヲ派遣スルニ同黨員ヲ以テシタルモノナリ

「ハイエー」ノ資格

「ナチス」ノ古黨員ニシテ獨乙政府ヲ正式代表スルモノ獨語ニテ Reich kommissar ト稱ス

「クノール」ノ資格 駐奉領事館副領事

(別添乙號)

奉天商埠地居住親日獨逸人貿易商「ベルトラム」ト駐奉獨逸領事館及在奉獨逸人トノ間ニハ豫テヨリ兎角面白カラサル空氣漂ヒ居リ今度「ベルトラム」ト舊知關係ニアル「ヒツトラー」代表「ハイエ」來滿シ「ベルトラム」ト往來スルニ至リ愈々右軋轢ニ拍車ヲカケテ來タルカ之カ原因ニ就キ探知セルニ左記ノ通

記

在奉獨逸商人等ハ昭和七年末頃ヨリ滿洲國ニ對シ舊政府ニ對スル債權回収運動ヲ開始シ昨昭和八年一月頃ヨリソレカ

(一)小磯(前)參謀長ノ轉任並氏ノ來往ニ關シテハ紙上其他機關ノ報道ニ依リ明ニ貴官ニ於テ御承知ノ筈 小磯參謀長ニ對シテハ曩ノ舊政府ニ對スル在奉獨逸人ノ債權回収ニ際シ多大ノ恩誼ヲ蒙リ居レハ貴官カ在奉獨逸人ヲシテ氏ノ離滿ニ際シ見送リヲナス可キハ理ノ當然ナルニ拘ラス之ヲナササリシハ所謂恩ヲ知ラサルモノナリ云々トノ書面ヲ送リタル處領事「ティゲス」ハ時恰モ赴連留守中ナリシヨリ代理事務ヲ取り居タル商務官「クノール」ハ領事ノ代理トシテ自分等ハ貴殿ノ如キ小磯參謀長ノ氣息ヲ窺ヒ生活スルモノニ非ス云々ト 右返信ヲ與ヘタル所爾來兩者ノ軋轢高調セルカソノ他在奉獨逸人ハ曩ニ當地ニ組織サレタル「ドイツ、ナシヨナ

ル、ソシアリスト、パーティ」ニモ「ベルトラム」ノ參加ヲ拒絶シ居レリト

565 昭和9年4月26日

菱刈関東長官より  
広田外務大臣宛(電報)

ハイエの関東厅側に対する好意的斡旋要請について

関東厅 4月26日後発  
本省 4月26日後着

第七號

本官發滿宛電報

第一七號

「ヒツトラー」政府代表者「ハイエ」ハ其ノ秘書「ツオーレス」少佐及伊藤俊介ヲ帶同九日以來御厨外事課長ヲ訪問シ其ノ代表權ヲ證スル電報、滿洲國政府ヘノ提案、同政府外交部ヨリノ回答及同回答ニ對スル質疑等ヲ提示シ同外交部トノ交渉ノ經過ヲ説明後外交部ノ回答ニ不満ノ意ヲ洩ラシ更ニ具體的ナル回答ヲ得ルコトヲ希望シ居ルモ滿洲國側ノ誠意ニ付疑ナキ能ストテ滿洲國カ「ハイエ」ノ提議ニ應

シ其ノ代表權ヲ證スル電報、滿洲國政府ヘノ提案、同政府外交部ヨリノ回答及同回答ニ對スル質疑等ヲ提示シ同外交部トノ交渉ノ經過ヲ説明後外交部ノ回答ニ不満ノ意ヲ洩ラシ更ニ具體的ナル回答ヲ得ルコトヲ希望シ居ルモ滿洲國側ノ誠意ニ付疑ナキ能ストテ滿洲國カ「ハイエ」ノ提議ニ應

スル意ナキ場合更ニ如何ナル提議ヲ爲スヘキカニ關スル何等ノ示唆及滿鐵其ノ他ノ有力ナル民間團體トノ交渉ヲ必要トル場合ノ好意的斡旋ヲ求ムル所アリタリ  
之ニ對シ御厨ハ一方外交部ニ付其ノ眞偽ヲ確カムルト同時ニ滿鐵林總裁及山崎理事ニ付滿鐵側ノ意嚮モ質シタル上獨逸カ一億二千萬圓ノ滿洲大豆ヲ輸入スル代リニ滿洲國モ同額ノ獨逸商品ヲ買ハサルヘカラスト云フカ如キハ滿洲國ノ實情ニ即セス殆ト不可能ヲ強要スルニ等シク此ノ種ノ基礎ヲ固執スルハ徒勞ニ終ルノ外ナカルヘキニ依リ更ニ自然且合理的ニシテ實行可能ナル方策例ヘハ一方在滿有力團體及特產商等ト大豆ノ購入ニ付交渉シ他方獨逸製品ノ販路擴張ノ爲宣傳及賣込ヲ爲サシムル爲滿獨乃至日獨合辦會社ヲ設立スル等ノ方法ヲ考究スル方賢明ナルヘク之カ爲ニハ先ツ滿鐵ニ接近シ其ノ意嚮ヲ尊重スルコト必要ナルヘシト言含メタリ

「ハイエ」ハ對滿交渉カ豫想ニ反シ容易ニ結果ヲ得サルヘキヲ察知シ而モ本國ニ於テ亞爾然丁産亞麻ヲ以テ滿洲大豆ニ代ラシメントノ運動熾烈トナレル旨ノ情報アリトテ焦燥ノ中ニ本件對策ヲ攻究シ居タル模様ナリシカ伊藤カ某方面

ヨリ満洲國政府部内ニ於テ今回「ツエツペリン」飛行船一

○隻ヲ獨逸ヨリ購入スルノ内意動キ居ル由探聞シ若シ事實トセハ本國政府ヘノ良キ土產ナリト思考セルモノノ如ク其ノ實現ニ付交渉ノ爲三人トモ二十四日夜行ニテ急遽北上セリ奉天立寄ノ上二十五日夜新京着ノ筈御参考迄

大臣へ轉電セリ

566 昭和九年五月一日 在満洲國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛

満州国と英國との經濟的提携に関する在奉天  
英國總領事談話について

(接受日不明)

昭和九年五月一日

在満洲國特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

駐奉天英國總領事「バトラー」談話ニ關スル件

本件ニ關スル滿洲國外交部川崎宣化司長ヨリ送付ノ報告書寫御參考迄別添送付ス

本信送付先 外務大臣、在奉天總領事

然レトモ満洲國トノ經濟的提携ハ必要ナルヲ以テ出來得レハ英國商側ハ日本ノ有力ナル商會ヲ代理トシテ滿洲ニ於ケル商取引ヲ緊密ニスルヲ以テ得策カト信セラル處此際出來得レハ英國ニ於テ最モ信用アリ且ツ非競爭的立場ニアル財團ヲ代表スル専門家ヨリ成ル調査團ノ渡滿ラ計リ満洲ノ經濟開發上英國カ滿洲國ニ寄與シ得ル問題ニ就テ調査セシムルコト可然キカト思料シ居レリ云々

尙同人ノ申出ニヨリ中銀鷺尾理事實業部高橋總務司長(張大臣不在ノタメ)ト會見セシメタル其際主客間ノ質問應答要領左ノ如シ

バ總領事 滿洲國內ニハ小貨幣ノ流通少キ爲メ地方農民ハ非常ニ不自由ヲ感シ居ル趣キノ情報ニ接シ居ル

カ實情如何

鷺尾理事 必スシモ然ラス、奉天造幣廠ニテハ現在一日百二十萬個(壹角以下ノ小貨幣)ノ小貨幣ヲ鑄造シ

テ各地方ヘ流通セシメ居レリ

バ總領事 事變以來日本ノ對滿投資額ハ相當額ニ達シ居ルモノト思ハルカ如何

鷺尾理事 滿鐵ノ增資以外日本一般財界ヨリノ投資ハ左迄

外宣祕合第一一二號

康德元年四月二十八日 殿

外交部宣化司長

新任駐奉英國總領事バトラー談話ニ關シ報告ノ件

夜來京二十六日日本大使館往訪後當部ヲ來訪シタルカ其節同人カ小官ニ語リタル談話要領左ノ如シ

小官今回ノ來京ハ何等本國政府筋ヨリノ指示ヲ受ケタルニヨルモノニ非ス單ニ新任挨拶旁個人的資格ニ於テ來京シタルモノナルカ仄聞スルトコロニ依レハ最近佛國ノ或

ル投資團ハ滿鐵ト提携シ滿洲開發ニ手ヲ染メタル趣ナルカ尙獨逸モ滿洲國當局ト經濟上何等カノ會商ヲ行ヒタリトノコトナルカ他方現在滿洲國內ニ於ケル英國商側ノ景況ヲ觀ルニ大体不振ノ情態ニアリ且ツ本國ニ於テモ亦現地ニ於テモ對滿經濟關係ニ就テ悲觀說ヲ持スル者多キ折柄右悲觀說ヲ打破スル要アリト信スル次第ナリ此際英國

トシテモ滿洲國ニ經濟的進出ノ必要ヲ認ムルモノナルカサリトテ滿洲國承認ノ如キハ英國カ聯盟ヲ脫退セサル以上滿洲國ノ承認ハ不可能視セラレ居レリ

多額ニ達シ居ラサルモ將來滿洲國建設事業進捗ニ伴ヒ相當資本流入スルモノト豫想サル

バ總領事 日本カ滿洲國開發ニ對シ經濟的發展上地理的ニ有利ナ地位ニアルコトハ承知シ居ルトコロ英國トシテハ日本ト競争セサル事業方面ニ於テ經濟的進出ヲ希望ス

先般貴國チヤーテー銀行ローズ氏來訪ノ節モ申上ヶ置キタルコトナルカ當時同氏ヨリノ談モアリタルニ付同行ト本中銀トノ取引開始ニ就キ同氏ノ考慮ヲ煩ハシ度旨申述ヘ置キタリ次ニ米國ノチエーズ銀行トハ取引開始ニ關シ取極成立セリ、依テ貴方銀行トモコレスピデンス設定ノ必要アルヲ感シ居レリ尙貿易上ニ於テハ英國ヨリノ特種機械類若ハ鐵道用材料ノ輸入ハ相當需用アルモノト思ハル

バ總領事 現下滿洲ニ於ケル產金狀況如何

鷺尾理事 本中銀ニテハ一日最高額國幣ニテ十萬圓程度ノ金ヲ買上ケシコトアルモ現在ニテハ毎日二萬圓乃至三萬圓程度ノ金ヲ買上ケ居レリ從來ニ於テ

ハ砂金ノ採取ハ勿論原始的方法ニテ行ハレタル  
カ將來ニ於テハ機械ヲ据付ケ相當多量ノ採金ア  
ルモノト豫想セラル

實業部總務司長ニ對シテハ特ニ產業開發策并ニ產業統制及  
ヒ石油專賣制度ニ就キ質問アリタルニ對シ司長ハ建國當初  
ヨリ最近迄ハ凡ユル產業ハ統制下ニ置クヘシトノ說相當有  
力ナリシモ最近ニ於テハ國防產業ヲ統制シ夫レ以外ハ自由  
競爭ニ委スコトヲ得策トスヘシトノ意見ニ傾キ居レリト述  
ヘ次ニ現在ニ於テハ各方面產業調査ハ完全ニ出來上リ居ラ  
サルヲ以テ向後ハ組織的ニ之カ調査ヲ行フ意向ニシテ又石  
油問題ニ就テハ海外ヨリ原油ヲ輸入シ精油ヲナス方針ナル  
旨述ヘラレタル處、バ總領事ハ石油專賣制度確立ニ伴ヒ外國  
石油ハ必然的ニ驅逐サルニ非スヤト憂慮ノ色ヲ見セ石油  
ニ就テハ將來充分研究致シ度ト述ヘ居リタリ

尙ホ(一)同人ノ洩シタルトコロニ依レハ來ル五月中旬ニハ  
在東京英國大使館參事官視察ノタメ來滿スル筈ナルカ他  
方目下渡日中ノ濱洲外相レーサム氏モ亦歸國ノ途次來滿  
スルヤモ知レス其際ハ萬事可然御依頼ストノコトニテ別  
レタリ

(二)同人ハ英國外務省日本サービス外交官トシテ二十餘年  
間日本方面ト關係ヲ有シ日本語非常ニ堪能ナリ前任者メ  
ヂヤー氏ハ支那勤務出ノ外交官ナリシカ今回バトラー總  
領事ノ奉天赴任トナリタルハ滿洲國ト日本關係ノ重要性  
アルニ鑑ミ英國外務省ノ採リタル新シキ方針ニ基クモノ  
ト認メラル

本信送付先 國務顧問、總務廳長、參議府祕書局長、財政  
部、實業部總務司長

本信寫送付先 日本大使館情報課長、關東軍第四課長、中  
央銀行鷺尾理事、大連滿鐵總務部長

567 昭和9年5月19日 在仏國佐藤大使より  
昭和9年5月19日 在仏國佐藤大使より  
廣田外務大臣宛(電報)  
568 昭和9年5月23日 在滿州國菱刈大使宛  
在滿州國菱刈大使  
在獨國永井大使  
在獨國永井大使

今後の仏國側対滿投資への影響に鑑みモパン  
社側に事業を請負させるべき旨意見具申

四月十三日附貴信亞三機密合第四一九號ニ關シ  
第二九六號  
パリ 5月19日後発  
本省 5月20日前着

ハイエ關係獨滿間通商問題に関する在本邦獨  
國大使館付陸軍武官と陸軍省係官との会談内  
容について

何分ノ儀御回電アリタシ  
滿ヘ轉電アリタシ

568 昭和9年5月23日  
在滿州國菱刈大使  
在獨國永井大使

ハイエ關係獨滿間通商問題に関する在本邦獨  
國大使館付陸軍武官と陸軍省係官との会談内  
容について

亞三機密合第七二三號  
昭和九年五月二十三日

外務大臣 廣田 弘毅

在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆殿

在獨國特命全權大使 永井 松三殿

「フェルディナンド・ハイエ」ニ關スル件

本件ニ關シ過日陸軍省係官ヨリ當省係官ニ對シ左記要旨内  
報越シタルニ付右何等御參考迄通報申進ス

記。

昭和九年五月四日在京獨乙大使館附陸軍武官「オットー」

五 滿洲国をめぐる諸問題

將來佛國側ヲシテ滿洲事業ニ乗出サシムル爲ニハ印(度)支  
那銀行乃至巴里銀行等ノ財的協力ヲ重要視セサルヲ得ス又  
假令東亞側ノ態度力單ニ佛國事業家トノ聯絡ヲ斷タサル爲  
ニ契約ヲ結ヒタリトスルモ一旦契約ヲ取交シタル以上重大  
ナル理由ナク之カ履行ヲ遷延スルカ如キハ信義ノ問題トシ  
テ面白カラス他方「ドリビエ」關係ノ契約等ハ別段「モノ  
ポール」ヲ與フル意味ニ非サルヘク旁此ノ際假令小規模ナ  
リトモ何トカ「スペン」側ニ仕事ヲ受クルコト能ハサル  
存セラルニ付テハ右東亞側ニ然ルヘク御説示相成様致度

五 満州国をめぐる諸問題

中佐陸軍省係官ヲ來訪シ「フェルディナンド、ハイエ」關係獨満問通商問題ニ關シ會談シタルカ其ノ要領左ノ通。

先ツ「オットー」中佐ヨリ本件ニ關スル陸軍省ノ意見ヲ伺度シト申出テタルニ依リ陸軍省係官ヨリ本件ハ陸軍省トシテ直接ノ關係ヲ有スルモノニ非ス。陸軍省トシテハ單ニ滿洲國關係ノ情報トシテ了承シ置クヘキモノト思考ス。尤モ此ノ意味ニ於テ本件ヲ考慮スルトキ「ハイエ」ニ關シテハ次ノ如キ疑問アリ。即チ

(イ) 「ハイエ」ノ提倡ニ係ル獨満通商協定締結ノ如キハ元來國家的事務ナルニ不拘在滿獨乙領事カ「ハイエ」ノ活動

ト聯絡ヲ有セスト言フハ了解ニ苦シム

(ロ) 今回ノ提案ト滿洲國承認問題トヲ牽連セシメントスル「ハイエ」ノ態度ニハ腑ニ落チサル點少ナカラス

是等ノ點ヲ思ヒ合スニ「ハイエ」ハ獨乙國政府ノ爲ニ行動スル者ニハ非スシテ寧口自己一人ノ個人的宣傳ニ從事シ居ル者ニハ非スヤトノ疑念ヲ抱カシムモノアル旨ヲ述ヘタリ

之ニ對シ「オットー」中佐ヨリ「ハイエ」ノ人物ニ付右様ノ御意見ヲ有セラルニ於テハ若シ他ノ何人カヲシテ「ハ

リ

「ハイエ」二代ラシムルコトトセハ本件交渉ヲ容易ナラシメ得ルヤト訊ネタルニ依リ陸軍省係官ヨリ決シテ「ハイエ」ノ人物ヲ云爲セントスルモノニハ非ス要ハ提案其ノモノ「メリット」如何カ問題ニシテ如何ナル人ヨリノ提案ナルニセヨ其ノ内容ニシテ妥當且實行可能ナルモノナラハ眞面目ニ考慮セラルヘキモノト思考ス兔ニ角獨乙側トシテハヨリ實行性ニ富ミタル提案ヲ示サルコト必要ニシテ之ニ關シ外務當局ト充分御協議アルコト可然ト應酬シタル處「オットー」中佐ハ御趣旨ハ充分了承セリ右ハ大使ニモ報告致置クヘシト述ヘ辭去セリ。

本信宛先、在滿大使、在獨大使

569 昭和9年5月24日 広田外務大臣より  
在滿州國菱刈大使宛(電報)

モパン社の対満事業には好意的考慮を払うべきにつき特定事業の同社請負に關する満鐵側

意向確認方訓令

本省 5月24日後7時0分発

第六一三號

在佛大使發本大臣宛電報第二九六號ニ關シ

本件ニ關シテハ貴電第一八五號接到ノ當時滿鐵支社ヨリ

「ブロツサール モパン」ノ内容等ニ關シ意見ヲ求メ來リ

タルニ依リ同社ノ内容ニ關シテハ在本邦佛國大使口添ノ次

第モアリ確實ト認メラル、ニ付本件進捗方可然ト認ムル旨

並ニ滿鐵側ニ於テ必要ノ資料ヲ求メラル、ナラハ在佛大使

館ニ照會スルコト、斯ヘキ旨係官ヨリ回答シ置キタル經緯

アル處其ノ後ノ成行ニ付テハ當方問合セニ對シ滿鐵側ヨリ

ハ何等回答ニ接セサル次第ナルカ在佛大使來電ノ次第八尤

モト認メラレ本件佛國側ノ申出ニ對シテハ成ル可ク好意的

考慮ヲ加フルコト可然ト思考セラル、ニ付關係方面トモ御

連絡ノ上至急滿鐵側ノ意向ヲ確メラレ結果回電アリタシ

佛ニ轉電セリ

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和九年五月二十九日附 在滿大使宛往信寫送付  
普通第四四七號

昭和九年五月二十九日 在滿大使宛往信寫送付  
普通第四四七號

件名

一、在奉獨逸領事館「カ、クノル」商務官談話報告ノ件

二、在奉獨逸領事館「カ、クノル」商務官談話報告ノ件

昭和九年五月二十九日 在奉天

總領事 蜂谷 輝雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

在奉獨逸領事館「カ、クノル」商務官談話報告ノ件

當地獨逸領事館商務官K. Knoll氏今般本國ニ歸還スルコトトナリタル趣ニテ本月二十四日離奉挨拶ノ爲本官ヲ來訪

シタルカ其ノ際獨滿貿易ニ關シ大要左記ノ如キ意見ヲ述へ

獨滿貿易に關する獨國商務官意見について

(6月4日接受)

570 昭和9年5月29日

在奉天蜂谷總領事より

広田外務大臣宛

普通第五〇五號

昭和九年五月二十九日

記

從來滿洲ハ大豆其他ヲ合シ約一億圓ヲ獨逸ニ輸出シ獨乙ヨリハ一千萬圓程度ノ輸入ヲナシ居リタル處最近ハ獨乙國內ノ經濟事情及國際爲替關係等ノ爲從來ノ如ク滿洲大豆ヲ輸入シ難キ實情ナルカ若シ滿洲國側カ今日ヨリ以上ニ諸機械類ヲ獨乙ヨリ購入スルコトトモナラハ獨滿間ノ貿易ハ好轉スルニ至ルモノト思考ス

私見ニ依レハ滿洲側カ先ツ毎年三千萬圓程度ヲ獨乙ヨリ購入セハ獨乙側ハ百萬噸程度ノ滿洲大豆ヲ買付クルコト敢テ不可能ニアラサルヘシ此趣旨ハ嘗テ滿洲側當局及關東軍特務部方面ニモ開陳シタルコトアリ當時實業部ノ一司長ハ公式ノ意見トシテ現在購入シ居ルモノノ外更ニ一千萬圓程度ヲ新タニ輸入セハ可ナラント謂ハレタルモ其程度ニテハ獨乙側ハ満足セサル可シ又獨乙ヨリノ輸入品ハ總テ格安ナル日本品ヲ以テ之ニ取り替へ得ラル可シト稱スル向アルモスクノ如キハ餘リニ日本側ニ偏シタル議論ニシテ一般貿易者間ニ於テハ兎モ角政府又ハ之ニ準スル機關即チ鐵路總局等ニ於テ獨乙品ヲ購入スルノ意思サヘアラハ其年所要額ノ

何割カヲ買付クルコト決シテ不可能ニアラサルヘシ尙實際ニ滿洲國側カ獨乙ヨリ諸機械類ヲ購入スル場合ハ値段ノ點等ニ於テモ日本品ト比較シ相當ノ處迄テ折合フコトモ不可能ナラサルヘシ旁々上述ノ如ク日本側ニノミ偏スル考ヘ方ハ所謂門戶開放、機會均等ノ主題ニ反スルノミナラス遂ニハ正反對ノ結果トナルヘシ

然モ獨乙ヨリニ千萬圓程度ノ機械類ヲ輸入スルコトハ日本側トシテハ其レ丈ケ犠牲ヲ拂フコトトナルヘキモ獨乙側ニ於テモ輸入制限ヲ緩和シ百萬噸見當ノ滿洲大豆ヲ輸入スルコトトテ夫レ相當ノ犠牲ヲ拂フコトトナルヘシ云々讓歩ニヨリ満獨貿易ノ進展ヲ計ルコトトナルヘシ云々尙同人ハ本件ニ關シテハ政府代表「ハイエ」氏ニ於テ滿洲國當局ト協議シ居ル筈ナルモ如上ノ私見ハ歸國ノ途新京ニテ滿洲國側ヘモ出頭申述ヘ度旨附言シ居リタリ

本信寫送付先 外務大臣 哈爾賓

571 昭和9年5月30日 菱刈関東長官より  
廣田外務大臣宛(電報)

ハイエと滿洲國財政部總務司長との間の獨満

### 通商に関する協定成立について

關東庁 5月30日後発  
本省 5月30日後着

第一三號

本官發滿宛電報

第二八號

往電第一七號ニ關シ

一、外事課長新京ニ於ケル正會議出席ノ際滿洲國財政部星野總務司長ニ就キ滿洲國側ノ内意ヲ確メタル處「ハイエ」

ノ爲ニハ好意ヲ以テ考慮中ナル由ナリシカ爾來「ハイエ」

ハ新京ニ赴キ星野ト折衝ヲ重ねタル結果廿二日大要左記要領ノ協定ニ達シタル趣ニテ廿八日御厨ヲ訪問シ極秘トシテ右協定寫シヲ内示シ且今後ノ好意的斡旋ヲ懇請セリ

イ、滿洲國ハ日本又ハ滿洲國內ニ生産セラレサル工業品ニシテ滿洲國ノ必要トルモノハ獨逸製品ヲ優先的ニ

購入スル事ニ努力スヘシ  
ロ、獨逸國ハ滿洲大豆輸入上ノ障害タル(a)「マルガリン」

製造平衡資金(b)原料大豆專賣附加稅及(c)油粕專賣附加稅等ノ制度ヲ撤廢又ハ緩和スルニ努力スヘシ

ハ、右合意ニ對スル獨逸政府ノ確認ヲ待チ更ニ具体的の交渉ニ入ルモノトス

二、尙「ハイエ」ハ奉天及哈爾賓駐在獨逸領事ハ北平獨逸公使ノ指揮ヲ受クル關係上滿洲國ニ於テハ何等ナス處無キ

ヲ以テ大連駐在領事ヲ總領事ニ昇格セシメ自ラ其ノ任ニ就キ兼テ滿洲國ニ對スル獨逸政府ノ「コンミツセール」

トナルノ案ヲ獨逸政府ニ具申ス可キ口吻ヲ洩シタリ御參考迄

大臣へ轉電セリ

~~~~~

572 昭和9年6月11日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

滿州國がモパン社側に具体的事業を与えるな  
らば滿鉄としても東亜土木にこれを是認させ  
る旨満鉄理事内話について

新 京 発

本省 6月11日後着

貴電第六一三號ニ關シ(「モパン」會社ノ對滿投資ノ件)

第七八二號



分程度ナルヘシ買付量ハ外ニ二ヶ月程度ニ止マリタル

理由ハ一面馬克ノ將來ニ對スル懸念ト他面原料不足ノ

場合獨逸政府ニ於テ當然輸入許可アルヘキ見込ヲ見越

シタルモノト推測セラル(即チ本令ハ將來許可制度ニ

改正セラルヘク觀測セラルルカ爲ナリ)

(<sup>(2)</sup>)獨逸ノ滿洲大豆取引ハ主トシテ倫敦其ノ他ノ仲介ヲ經

ルヲ以テ將來若シ獨逸側ノ無謀ナル措置ニ際シテハ是

等仲介筋ノ策動アルヘク又本月四日ヨリ「ストツクホ

ルム」ニ於テ開催ノ歐洲油房業者會議ニ於テ相當問題

トナルヘシト推察セラル

(二)前項ノ事情モアリ又獨逸油房側ニ於テ遠カラス原料不

足ヲ告クル見込ナルヲ以テ本邦側トシテハ一先ツ何等

對策ニ出テ斯平靜裡ニ形勢觀望カ有利ナルヘシ

ルル爲ナリ

本電大使御承知

満、哈爾賓ヘ轉電アリ度シ

(欄外記入)

574 昭和9年6月22日 在滿州國菱刈大使より

廣田外務大臣宛(電報)

獨國政府の油製原料一時的輸入禁止措置に對  
し滿州國財政部總務司長よりハイエへ抗議の

上抗議內容を獨國政府へ打電方要請について

別電 六月二十二日發在滿州國菱刈大使より廣田外

務大臣宛第八二二号

右打電內容

新 京 6月22日後発

本 省 6月22日後着

第八二二號

往電第四六三號ニ關シ(「ハイエ」ノ獨滿間通商ノ件)

其ノ後「ハイエ」ハ外交部トノ交渉ヲ一時打切り財政部星  
野總務司長ニ接近シ同司長トノ間ニ關東長官發本使宛電報  
第二八號ノ趣旨ノ話合アリタルコトハ當時同司長ヨリ係官  
ニ對シ内話ノ次第アリ當方トシテハ引續キ成行注視中ナル  
カ其ノ後星野司長ノ係官ニ語ル所ニ依レハ十九日「ハイエ」

ト會見ノ際星野ヨリ最近獨逸ニ於テ發表セラレタル大豆ノ

輸入制限ニ關シ難詰シタル上滿洲國トシテハ斯ノ如キ制限  
存在スル以上何等ノ商議ニ入ルコト能ハス滿洲ト獨逸トノ  
關係ニ於テハ著シキ片貿易(滿洲ヨリ獨逸ヘノ輸出六千六  
百萬圓獨逸ヨリノ輸入一千萬圓)ナルモ日滿「プロツク」ト  
シテ之ヲ見ルトキハ却テ獨逸ハ輸出超過(日本ヨリ獨逸ヘ  
ノ輸出一千二百萬圓獨逸ヨリノ輸入九千五百萬圓)トナリ  
居レルヲ以テ若シ獨滿間ノ片貿易ノミヲ調整セントセハ自  
然滿洲國トシテハ二億三千萬圓ノ輸出ニ對シテ一億圓ノ超  
過即チ三億三千萬圓ニ上リ居ル日本ヨリノ買附ヲ手控ヘサ  
ル可カラサルコトモナル可ク其ノ結果ハ日本ヲシテ獨逸  
ヨリノ輸入ヲ減額スル已ムナキニ至ラシムルコトモナル  
可キ次第ヲ説明シ十七日「ハイエ」ヨリ別電ノ趣旨ヲ本國  
ニ打電セシメタル趣ナリ

本電別電ト共ニ獨、關東廳ヘ轉電セリ

(別電)

新 京 6月22日後発  
本 省 6月22日後着

575 昭和9年6月23日 菱刈關東長官より  
廣田外務大臣宛(電報)

ハイエの在本邦獨國大使往訪前に同大使館側

斯ル諸國ニ對シテハ報復手段ヲ講シテハ如何  
尚此ノ方法ニ依ルトキハ余ハ滿洲國ヨリ具體的ノ商品ノ  
offerヲ受ケルコトノ確信ヲ有ス

△獨國政府の油製原料一時的輸入禁止措置へ  
△我が方威圧的意向を示すべし旨具申

関東厅 6月23日後発

本省 6月23日後着

第二五號

満發大臣宛電報第八二一號ニ關シ(「ハイエ」ノ獨滿間通商ノ件)

二十二日「ハイエ」當廳ニ外事課長ヲ訪問シ新京ニ於ケル

星野司長トノ交渉ノ大要ヲ報告シ獨逸政府ヲ動カス上ニ

「フォン、デイルクセン」大使ト更ニ打合ノ必要ヲ認メタ

ルヲ以テ直ニ東京ニ向フ可ク約十日間ニシテ歸連スヘシト

テ引取りタルカ二十三日出帆ノ「ウスリー」丸ニテ東上セ

リ就テハ此ノ際貴省ニ於テ大使館ニ對シ獨逸カ滿洲大豆ノ輸

入ヲ阻止スルカ如キ措置ヲ放棄セサル以上日本トシテモ日

滿經濟「ブロツク」ノ建前上獨逸製品ノ輸入ヲ禁止又ハ制

限スルノ已ム無キニ立至ル可シトノ意向ヲ仄カシ之ニ多少

ノ威壓ヲ加ヘラルニ於テハ局面打開上資スル處アル可キ

ヤニ思考セラル

外務大臣 廣田 弘毅殿

「ハイエ」ノ風評ニ關スル件

目下貴地ニ滯在中ノ模様ナル獨逸人「ハイエ」(F.Heye)ノ

正式ノ資格ニ付テハ之ヲ承知シ居ラサル處最近獨逸人某

(特ニ本人ノ依頼ニヨリ其名ヲ秘ス)ヨリ同人ハ一九二五、

六年ノ頃哈爾賓在住當時同人ノ經營セシ Eisenträger.

Heye & Co.關係者カ「モヒ」及「コカイン」等禁制品ヲ密輸セル事實アル旨ノ嫌疑ヲ受ケ之カ爲同人ハ或ハ近ク本

國ニ召還セラルヤモ知レス若シ然ル場合ニハ同人ヲ相手

トスル諸般交渉ハ獨逸國ト日滿兩國ノ關係ヲ誤マル惧アルニ付注意スル要アル可シト申出テ有之尙「ハイエ」ハ在住

昭和九年七月三日

在奉天

機密第五九六號

(7月9日接受)

576 昭和9年7月3日 在奉天蜂谷總領事より  
△禁制品密輸嫌疑などの素行不良のためハイエ  
△は近く本国に召還されるとの情報について

在奉天蜂谷總領事  
△廣田外務大臣宛

獨國人間ニモ餘り評判ヨロシカラサル旨種々申述ヘ居リ右ハ一概ニ「ハイエ」ニ對スル中傷的言辭トノミ認メ難キニ依リ何等御参考迄報告申進ス

本信寫送附先 大使

.....

577 昭和9年8月1日 在仏國三谷臨時代理大使より  
△広田外務大臣宛電報

△仏國側各團体との既存契約につき実行もしくは再考などの具体的措置をとるべき旨意見具申

パリ 8月1日後発

本省 8月2日前着

貴電第一九三號ニ關シ(「ドリビエ」一件)

最近「モアラン」側ヨリ棉栽培ノ件ヨリ延ヒテ「ドリル」

契約ノ履行振ニ關シ苦情ヲ申出テ來リ不取敢一件書類送付シ置キタルカ其ノ後「メルレ」モ館員ヲ來訪ノ際滿鐵側ト交渉ヲ重ヌルモ何等仕事ヲ吳レストテ不満ノ意ヲ漏ラシ居リタリ然ルニ本件「ドリビエ」契約ハ往電第三六五號、第

三七一號及第三八一號ヲ以テ申進ノ通り先方ノ態度甚々曖昧ナルカ若シ當方ノ質問ニ答ヘ先般ノ通告ヲ以テ無條件承諾ナリト回答シ來ル場合ニハ茲ニ契約成立シ滿鐵側トシテハ次テ何等具体的提案ヲ爲ス可キ段取トナル處當地ニ於ケル狀況ヨリ見ルニ斯ル同種ノ契約ヲ數多結ヒ其ノ何レモ滿足ナル履行ヲ見サルトキハ結局是等契約當事者ノ背後ニアル當地金融業者工業家等ヲシテ滿洲企業ヲ眞面目ニ考慮セシメサルニ至リ將來ノ爲却テ好マシカラサルニアラスヤト懸念セラル故既存ノ契約ニシテ信用スヘキ筋ノモノニハ成ルヘク實行ヲ與ヘ然ラサルモノニ付テハ更ニ再考スルノ可ナラサルヤヲ思ハシムル次第ナリ

右ノ點一應御考慮ノ上往電第三八一號ニ對シ改メテ御回示ヲ請フ

本電ノ内容佐藤大使へ御傳ヲ請フ

578 昭和9年8月22日 在滿州國菱刈大使より  
△広田外務大臣宛(電報)

△英國鉱業会社の採金事業參加計画およびモバ  
△社の対滿投資計画の現状について

新 京 8月22日後発  
本 省 8月23日前着

第一〇二六號

往電第二六七號ニ關シ〔ブリナー〕事業計畫ニ關スル件  
〔ブリナー〕ハ其ノ後成立シタル滿洲採金株式會社ト請負  
契約ニ關シ交渉ヲ續ケ居レル處同會社重役ノ多數ハ個人的  
ニハ同人ノ申出ニ好意ヲ有シ居レルモ礦業法モ制定セラレ  
ス外國(人)ノ礦業經營ニ關スル方針未決定ノ理由ニ依リ具  
體的交渉ニ入ルコトヲ禁セラレ居ル趣ヲ以テ只管交渉遷延  
ニ努メ居レルカ〔ブ〕ハ同會社ノ斯ノ如キ態度ニ對シ鮮カラ  
ス失望シ當館保管〔<sup>係官</sup>〕對シテモ頻リニ當惑ノ意ヲ洩ラシ居  
レリ

軍及實業部方面ニ於テハ礦業法制定ニ付テハ條文ノ上ニ現  
ハサシテ實際上第三國人ヲ排斥スル方法ニ付苦心シ居レ  
ルコトハ御承知ノ通ナルカ假令法律上許サレタル範圍内ニ  
於テ日本人ト第三國人トカ平等ニ出願スル場合ニ於テモ出  
來得ル限り第三國人ヲ排斥セントスル空氣漸次濃厚トナリ  
居リ自然新礦業法制定後事實上同人ノ計畫實現ハ極メテ望  
薄キ狀態ニアリ

579 昭和9年9月28日 在滿州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

英國鉱業會社の採金事業參加計畫およびモパン  
ン社の對滿投資計畫の狀況好轉について

付 記 作成日、作成局課不明

〔ブリナー〕ノ滿洲國ニ於ケル採金事業參加  
ノ件」

新 京 9月28日後発  
本 省 9月28日後着

第一一四五號

往電第一〇二六號ニ關シ〔ブリナー〕事業計畫ニ關スル件  
其ノ後歸朝セル大橋次長トモ協力シ係官ニ於テ關係各方面  
ニ對シ說得ニ努メタル結果〔ブリナー〕「プロサール、モパン」  
「トモ話合ヒ急ニ好轉シ

「ブリナー」ニ關シ

一般的評定滿洲ノ金鑛開發ニ參畫セシムル事ニ根本方針  
大体決定セラレ唯法律的ニ如何ナル形式ニ於テ實現セシ  
ムルカニ付目下滿洲國政府部内ニ於テ研究中ナルカ鍛金  
會社トノ間ノ請負契約ノ具体的條件ニ關スル交渉ハ既ニ

更ニ「プロサールモパン」ト東亞土木トノ契約ニ基ク滿洲  
國側ノ事業提供ニ關シテモ(往電第七八二號參照)「モパン」  
代表者ノ努力ニモ拘ラス未タニ全ク目鼻付カサルカ如キ前  
記傾向ノ現レトモ言フヘク一般的ニ滿洲國ニ於ケル第三國  
人ノ投資乃至企業ハ多少ニテモ政府ト關係アルカ又ハ利權  
的性質ノモノハ其ノ實現極メテ困難ナリト言ハサルヲ得ス  
勿論建國早々ノ際ト異リ徒ニ第三國ノ好意ヲ求ムル必要無  
カルヘキモ當方トシテモ滿洲國ノ門戶開放機會均等ノ聲明  
ニモ鑑ミ國防等ノ特殊ノ事情無キ限り第三國人ニ對シテモ  
適當ノ好意ヲ示スコトハ大局上滿洲國ニ取り望マシキコト  
ヲ機會アル毎ニ説得ニ努メ居リ技術上事務上ノ見地ヲ離レ  
大局上ヨリ政策ヲ決定スヘキ委員會(豫テ當館係官ト特務  
部堀中佐ト協議ノ上軍、滿洲國、大使館ノ首腦部ヲ委員ト  
スル對策決定機關ヲ組織スルコトニ談合成立シ居ルモノ)  
ノ如キ成ルヘク速ニ實現スル様主張シ居レル次第ナリ英國  
實業團來滿期モ切迫セル折柄ニモアリ不取敢御參考迄ニ右  
實狀電報ス

編 注 本件については、十二月二十八日付在滿州國南大使  
より廣田外務大臣宛公信公機密第二二七五号におい  
て、同月二十二日付を以て滿洲國側よりもパン社側  
に工事注文書が交付された旨報告されている。

(付記)

「ブリナー」ノ満洲國ニ於ケル採金事業參加ノ件

(一)概略

英國ノ一大礦業持株會社タル「セレクシヨン」トラスト(Selection Trust)會社會長「ビーティー」(A. C. Beatty)ノ代表者「ブリナー」(Bryner)ハ満洲採金會社ノ採金事業ノ下請負ヲ爲サンカ爲丁下満洲國政府ト交渉中ナリ(二)「セレクシヨン」トラスト」會社ノ概況及「ブリナー」ノ身分

本會社ハ資本金二千五百萬磅、南阿、加奈陀、南米等ニ於ケル十以上ノ金礦並鑛山會社ヲ統制スル持株會社ニシテ「ブリナー」ハ同會社會長「ビーティー」トハ帝政露國時代沿海州ニ於テ共同ニテ礦業ヲ經營シタルコトアル由ナルカ客年十月「ビーティー」ノ代表者ト成リ在英松平大使ノ紹介狀ヲ携ヘ在滿大使館谷參事官ヲ來訪シタル者ニシテ瑞西國籍白系露人ナリ

(三)「ブリナー」渡滿ノ目的及渡滿後ノ活動

同人ハ満洲國ニ於テ金礦事業ヲ調査シ有望ナル金礦ヲ發見セハ満洲國政府又ハ日本人ト合辦會社ヲ設立シ事業ヲ

經營セントノ目的ヲ以テ客年十月渡滿シ満洲國側當局者及小磯參謀長等ト面談セルモ元來満洲國側當局者ル金礦ハ國有トシ満洲採金會社ヲシテ經營セシムルヲ國策トシ居ル次第ニモアリ「ブリナー」ノ希望シタル「コンセツシヨン」ヲ得ルノ見込ナキ爲在滿大使館側ノ勸告ニ基キ満洲採金會社ヨリ採鑛精鍊ノ下請負ヲ爲サントノ計畫ヲ樹立シ本年二月廿一日關東軍參謀長ニ對シ計畫ノ覺書ヲ提出シタル處特務部ニ於テハ主義上之ニ贊成シタルモ關東軍カ表面ニ出テ右計畫ニ關係スルハ面白カラスト認メ「ブリナー」ニ對シテハ満洲國側ト交渉スヘキ旨回答シタル爲「ブリナー」ハ満洲國側ト話ヲ進メ居リタル結果満洲國政府ハ「ブリナー」ヲ満洲ノ金礦開發ニ參加セシムルコトニ根本方針決定シ目下如何ナル法律的形式ニ於テ實現セシムルカラ研究中ナルカ右請負契約ニ付テモ採金會社ノ監督官廳タル實業部ト「ブリナー」トノ間ニ交渉中ナリ

580 昭和9年11月10日 在仏國三谷臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

旧ドリル側財團とドリヴィエ側財團との合同確定  
と代表団の満州國および本邦訪問意向について

パリ 11月10日後発  
本省 11月11日前着

第五十九號

<sup>(1)</sup>往電第五〇七號ニ關シ(「ドリヴィエ」満鐵協定ノ件)

九日「フージエイル」來訪左ノ通り申出テタリ  
(一)經濟發展協會ト「モアラン」派トノ合同ハ今朝確定的ニ成立シ「フージエイル」カ「モアラン」若ハ同派代表

Hautot(Compagnie générale de construction de St.

Denisノ理事)及「ドゥデー」ヲ伴ヒ満洲及日本ヲ訪問スルコトニ主義上決定セリ就テハ一行ノ旅行ニ付便宜殊ニ満洲及本邦ニ於ケル鐵道ノ無償乗車ノ提供ヲ受ケ得ヘキヤ尙本年末出發西比利亞經由トシ度シ

(二)「フージエイル」ハ週刊新聞Européenノ政治部長トシテ同紙ノ經濟記事ヲ監督シ居ル處今般同紙所有主且社長タルMadame Turolヲ同行シ日本ニ關スル調査ヲ同紙ニ

發表スルコトシ度ク右ハ「フージエイル」ニ於テ充分注意シ日本ニ有利ナル様ニスルコト勿論ナリ就テハ同夫人ノ日滿ニ於ケル旅費並ニ滯在費ヲ日本側ニテ負擔叶フマシキヤ尙同夫人ハ英國印度總督タリシ Reading 脚ノ姪ニシテ社會的地位モ高ク且英語ニ堪能ナルヲ以テ「フージエイル」カ英語ニ充分通セサル關係上同夫人ノ同行ハ同人ニトツテ甚好都合ノ次第タルナリ  
(三)尙「アントランシジヤン」紙通信員Blanchetヲモ伴ヒ度キ處同人ニ付日滿ノ無償乗車ノ便宜ヲ得ラルレハ満足ナリ  
以上「フージエイル」ノ申出ニ對シ何分ノ儀至急御回示相成度シ

<sup>(2)</sup>「フージエイル」カ今般斯ル申出ヲ爲シタルハ「ドリル」「オリビエ」兩名ヲ派遣セル兩團體カ今般愈眞劍ニ對滿投資ヲ實現セントスル段取ナリタルニ際シ前記兩名カ何レモ不成績ニシテ日滿側トノ聯絡不充分ナルヲ痛感セルト他方英國實業團ノ訪滿ニ刺戟セラレタルニ依ルモノト思考セラルナリ

「フ」ハ前代議士ニシテ活動家ノ評アリ現ニ佛國絹業聯合

會及國際絹業聯合會會長トシテ本邦ノ利害關係多キ方面ニ  
勢力アル點(本年六月七日附通機第五九號高澤領事報告御  
參照)Européen ハ目下大シテ有力ナリトハ思ハレサルモ  
經濟ヲ主トシ絹業者織維業者等ノ關係シ居ル新聞トシテ佛  
國ノミナラス外國ニモ實業界方面ニ相當讀者アル趣ナルニ  
モ顧ミ旁先方申出ニハ目下經濟界不況ノ際トハ言ヘ蟲ノ良  
キ點アルモ好意的ニ御考慮ヲ得度シ  
里昂ヘ暗送セリ

581 昭和9年11月15日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

諸外國企業の満州國事業參画計画に関する報  
道は日本側關係業者の反対運動を生起させぬ  
よう配慮すべき旨意見具申

新 京 11月15日後発  
本 省 11月15日後着

第一三二一號  
十五日東京發國通ニ依レハ「プロサールモパン」會社ハ既  
ニ滿洲國外交部ノ建築請負ヲ了シ又「セレクシヨントラスト」代表者「ブリチー」ハ最近滿洲採金會社ト提携シテ滿  
洲採金事業ニ協力スル契約ヲ締結シタル趣報シ居レル處兩  
社トモ主義上ノ合意ヲ見タルニ過キスシテ何等滿洲國側ト  
契約書等ニ調印シタル次第ニアラス細目ニ關シ目下交渉中  
ナル次第ハ御承知ノ通ニシテ滿洲國側ニ於テハ日本側關係  
業者ヲ差措キ獨立ニ本件契約ヲ爲スコトニ關シ日本側關係  
業者ニ於テ反対運動ヲ起スカ如キ事態ヲ生スルコトニ付甚  
シク危惧シ居レル此ノ際(右)ノ如キ事實ニ相違シタル報道  
カ東京方面ヨリ報セラルルコトハ本件交渉進行ニ極メテ惡  
影響ヲ及ホスモノト存セラレ外交部ヨリモ特ニ申出ノ次第  
アリタルニ付本件報道ノ出所御取調相成ト同時ニ(右)ノ如  
キ報道ノ發表セラルルカ如キコト無キ様今後共特ニ御配慮  
相煩シ度シ

## 六 雜 件

### 1 岸本チーフ・セクレタリー復職問題

582 昭和9年1月8日 広田外務大臣より  
在中國有吉公使宛

岸本休暇明け後のチーフ・セクレタリー復職  
実現につきメーズ總稅務司へ打診方訓令

付 記 昭和八年三月七日付在中國有吉公使より内田  
(康哉)外務大臣宛公信機密公第一〇七号  
岸本の休暇明け後のチーフ・セクレタリー復  
職に関するメーズとの往復書簡送付について  
段申進ス

亞一機密第一號  
昭和九年一月八日

外務大臣 廣田 弘毅

(付 記)

機密公第一〇七號

(昭和8年3月20日接受)

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

邦人海關吏復仕方ニ關スル件

在中華民國

特命全權公使 有吉 明〔印〕